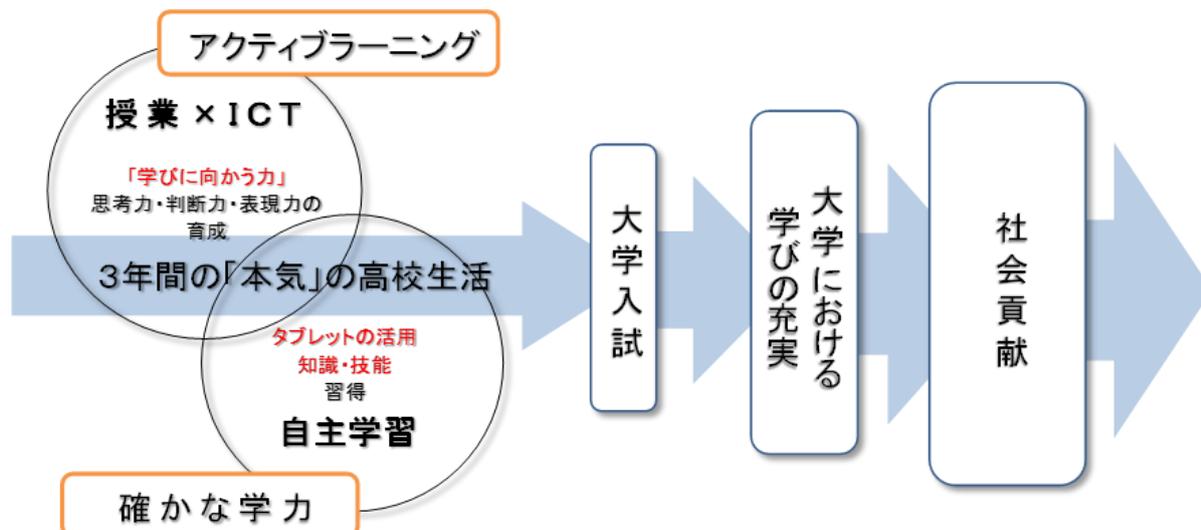


		頁
大宮北高校「本気の学習」		1
令和5年度入学生教育課程表(普通科・理数科)		2
＜各教科から＞		
	コース・科	
1 国語科		4
	論理国語	5
	古典探求	9
	文学国語	15
	観点別評価	16
2 地歴科	地理総合	19
	日本史探究	21
	世界史探究	24
	地理探究	26
	観点別評価	28
	普通	
	普通	
	普通	
	理数	
3 公民科		32
	政治・経済	34
	倫理	36
	公共探究	37
	観点別評価	38
4 数学科		41
	数学探究	43
	数学Ⅲ	44
	SS理数数学特論	45
	観点別評価	46
	普通	
	普通	
	理数	
5 理科		49
	生物	50
	SS理数生物	51
	化学探究	52
	化学	53
	SS理数化学	54
	物理	55
	SS理数物理	56
	地学探究	57
	観点別評価	58
	普通	
	普通	
	普通	
	理数	
	理数	
6 保健体育科	体育	66
	スポーツⅡ	69
	観点別評価	72
7 芸術科	演奏研究	74
	クラフトデザイン	76
	実用の書	78
	観点別評価	80
8 英語科		83
	論理・表現Ⅲ	86
	英語コミュニケーションⅢ	87
	英語特講	88
	観点別評価	89
9 家庭科	保育基礎	90
	観点別評価	91
10 STEAMS TimeⅢ		92
	観点別評価	94

大宮北高校「本気の学習」

教育改革の先進校で学ぶ喜び



北高生は自らが自己の高校生活に「本気」で取り組み成長します。
どんな「本気」に取り組み、自分の高校生活を豊かにしますか？
多彩な学校生活には「本気の部活動」「本気の学校行事」もあります。
「本気の学習」を大切に、「本気の部活動」「本気の学校行事」を生かしましょう。
大宮北高校は皆さんの「本気」を応援します。

授 業

大宮北高校の授業は「学問の魅力」を伝えます。
大学入試に対する表面的なノウハウだけを伝えるものではありません。
自ら積極的に発信し、学ぶことの楽しさを感じてください。
授業を中心とした予習・復習のサイクルを確立することで「学びに向かう力」が育ちます。
希望の大学に進学できる、大学入学後も生きる「力」がつかます。
ICTを活用した「アクティブラーニング」→「思考力」「判断力」「表現力」の育成
「脱、教え込み授業」→「発信力」を育て、「学びに向かう力」「人間性」を滋養します。

自主学習

大宮北高校では自ら学び、学問を深める力を必要と考えています。
社会に貢献できる人材となるために、自らの「志」に向かった努力が必要です。
通学時間や部活動等によって個々の時間の使い方は変わります。
個人タブレットをどのように活用するか。受信データをどう活用するかは個人に任せられます。
3年間を見据えた学習計画、各学年における学習計画をもとに、
個々の日々の学習計画を構築していきましょう。
苦手科目も克服していけるようにバランス良く時間を確保することが大切となります。
学習計画は担任の先生等との面談を通して確認していきましょう。
理数科・普通科併置による充実した学習システム→互いの「知的好奇心」を刺激・成長
海外交流事業、海外修学旅行等→国際社会に通用する視野を持つグローバル人材の育成

各教科・科目等	標準 単位	1 年	2 年	3 年			計		
				A 1	A 2	B			
各学科に共通する 各教科・科目	国語	現代の国語	2	2				12~18	
		言語文化	2	2					
		論理国語	4		2	3	3		2
		古典探究	4		3	3	4		1
	地理歴史	地理総合	2	2					5~14
		歴史総合	2		3				
		日本史探究	3			●5	●5		
		世界史探究	3			●5	●5		
	公民	地理探究	3				○4	○3	2~6
		公共	2	2					
		倫理	2			○2	○2		
	数学	政治・経済 (学)公共探究	2			2	○2		11~18
		数学Ⅰ	3	3					
		数学Ⅱ	4		4				
		数学Ⅲ	3					4	
		数学A	2	2					
		数学B	2		2				
		数学C	2					3	
	理科	(学)数学探究	2~4			○2	4		10~20
		物理基礎	2		2				
物理		4					●5		
化学基礎		2	2						
化学		4					5		
生物基礎		2	2						
生物		4					●5		
地学基礎		2		○2					
(学)STEAM化学		2		○2					
(学)STEAM物理		2		●2					
(学)STEAM生物	2		●2						
(学)化学探究	3					▲3			
(学)地学探究	3					▲3			
保健体育	体育	7~8	3	3	2	2	2	10	
	保健	2	1	1					
芸術	音楽Ⅰ	2	●2					2	
	美術Ⅰ	2	●2						
	書道Ⅰ	2	●2						
	(STEMS Time II 音楽)			(2)					
外国語	(STEMS Time II 美術)			(2)				16~19	
	(STEMS Time II 書道)			(2)					
	英語コミュニケーションⅠ	3	3						
	英語コミュニケーションⅡ	4		3					
	英語コミュニケーションⅢ	4					4		
	論理・表現Ⅰ	2	2						
	論理・表現Ⅱ	2		2					
論理・表現Ⅲ	2			2	2	2			
(学)英語特撰	3			3					
主として専門科目において	家庭基礎	2	2					0~2	
	家庭保育基礎	2~6					▲2		
	音楽演奏研究	2~6					▲2		
	美術クラフト・デザイン	2~10					▲2		
	書道実用の書2608	2~4					▲2		
	体育スポーツⅡ	2~12					▲2		
	STEAMS Time I	2	2						
SS理数	BEST CLaSS	1		1				6	
	STEAMS Time II	2		2					
	STEAMS Time III	1			1	1	1		
小計		32	32	32	32	32	96		
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	1	1	3	
合計 (週当たりの授業時数)		33 (34)	33 (34)	33 (34)	33 (34)	33 (34)	33 (34)	99 (102)	
備考		1年 ●印から1科目選択 2年 ●、○印からそれぞれ1科目選択 3年 (A1) ●、○、▲印からそれぞれ1科目選択。 (A2) ●、▲印からそれぞれ1科目選択。 ○印の選択は以下の(ア)または(イ)を選択する。 (ア)地理探究を選択。(イ)倫理、政治・経済を選択。 (B) ●、○印からそれぞれ1科目選択。 1年 「STEAMS Time I」 SSH指定校として情報Ⅰ(2単位)の代替 2年 「STEAMS Time II」 SSH指定校として課題研究の内容に応じて選択 理数探究、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、書道Ⅱ(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーションⅡ」を1単位分減算					・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位 ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位		

令和5年度入学生 教育課程表(理数科)

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年	計	
教科	科目						
各学科に共通する 各教科・科目	国語	現代の国語	2	2		11	
		言語文化	2	2			
	論理国語	4		2	2		
	古典探究	4		2	1		
	地理歴史 公民	歴史総合	2		3	3	6
		地理総合	2				
	保健 体育	体育	7~8	2	3	2	9
		保健	2	1	1		
	芸術	音楽 I	2	● 2			2
		美術 I	2	● 2			
		書道 I	2	● 2			
		(STEAMS Time II 音楽)			▽(2)		
		(STEAMS Time II 美術)			▽(2)		
	外国語	(STEAMS Time II 書道)			(2)		
		英語コミュニケーション I	3	3			16
		英語コミュニケーション II	4		3		
		英語コミュニケーション III	4			4	
論理・表現 I		2	2				
論理・表現 II		2		2			
論理・表現 III		2			2		
家庭	家庭基礎	2	2			2	
生徒 が 選 ぶ 理 数 科 目	S S 理 数	SS理数数学 I	5~7	6		48	
		SS理数数学 II	7~9		6		
		SS理数数学特論	4~6				7
		SS理数生物	6~8	2	2		● 5
		SS理数化学	6~8	2	3		4
		SS理数物理	6~8	2	2		● 5
		STEAMS Time I	2	2			
		BEST CLaSS	1		1		
		STEAMS Time II	2		2		
		STEAMS Time III	1				2
小 計			32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	3	
合 計 (週当たりの授業時数)			33 (34)	33 (34)	33 (34)	99 (102)	
備 考		1年 ●印から1科目選択 3年 ●印から1科目選択 1年 「SS理数数学 I」 S S H指定校として「理数数学 I」(6単位)の代替 2年 「SS理数数学 II」 S S H指定校として「理数数学 II」(6単位)の代替 3年 「SS理数数学特論」 S S H指定校として「理数数学特論」(7単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数生物」 S S H指定校として「理数生物」(9単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数化学」 S S H指定校として「理数化学」(9単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数物理」 S S H指定校として「理数物理」(9単位)の代替 1年 「STEAMS Time I」 S S H指定校として情報 I (2単位)の代替 2年 「STEAMS Time II」 S S H指定校として理数探究(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーション II」を1単位分減単				・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計の単位数 ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計の単位数	

1 国語科

◆ 国語という教科 … 日常の積み重ねを大切に

教科の学習を通して、生涯の社会生活における他者との関わりにおいて伝え合う力や、思考力や想像力を身につけることが最終的な目標となります。そのためにも、多くの作品に触れ、自分なりの意見を持ち、他人の考えから気づきを得て、さらに考えを深めるように学習していきましょう。

国語の学習は、読解力・表現力だけではなく感性を磨き、思考力を高め、豊かな感受性を育むことにつながります。日頃から、語彙力を豊かにし、いろいろな文章に触れ、人の話に耳を傾け、自らも文章を書き、発言して試みるのが大切です。

また、そのためにも語彙や文法などの基礎知識が重要となってきます。正しい意味、言葉の使い方や身につけ、自在に扱えるようになることを目指しましょう。

◆ 3年次の科目

<論理国語>

「論理国語」で扱うのは、主に《論理的な文章》や《実用的な文章》です。ただ文章を読んでいくのではなく、話し合いなどの様々な言語活動を通じて、「論理的に考える力」や「実社会に必要な知識」を身につけて養っていく科目です。

<古典探究>

「古典探究」で扱うのは、《古文》《漢文》の作品です。日本の言語文化に対する理解を深めていく科目です。古典作品に対しても「自分がどう感じたのか」を表現することが重要です。そのためには、正確に文章を読み取る力が求められます。それは、多様に使用される語彙や文法を正確に識別することと表裏一体です。作品の解釈のための読解力とは、基礎力そのものなのです。

<文学国語>

「文学国語」で扱うのは、《文学的な文章》です。例として、「小説」「随筆」「詩歌」などが挙げられます。この科目の特徴は、「深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視している」という点です。皆さんが、豊かな感性や情緒を備え、幅広い知識や教養を身に着けることのできる科目と言えます。そのために作品を精査・解釈し、作品に対する考えを形成・共有し、解釈の多様性を大切にしていきます。

◆ 「古典」の学習について

<古文の学習>

日本における、近代よりも前の文学作品を「古文」といいます。ジャンルは詩歌や物語、随想など多岐にわたります。一番の特徴は「言葉の違い」です。現代の言葉遣いからイメージできる単語もあれば、意味の異なる単語もあります。また、文法も現代の日本語とは異なります。作品の世界を味わい、理解を深めていくためにも「単語」と「文法」のマスターがとても重要です。『古文単語 315』や『完全マスター古典文法』を活用し、正しい知識を身につけましょう。

<漢文の学習>

「漢文」は中国における古典作品です。高校の授業で扱う作品は限られていますが、詩歌や物語など様々な作品に触れます。中国の言葉で書かれているので、「句法」や「語彙」など新しく学ばなくてはならないことがたくさんあります。『漢文必携』や『国語便覧』を活用し、古文同様に正しい知識を身につけましょう。

年間学習計画表（A）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
論理国語		3	高等学校 論理国語 [第一学習社]	『新訂総合国語便覧』（第一学習社） 『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店） 『読解を深める現代文単語』（桐原書店） 『近現代文学コレクション』（第一学習社） 『総合版 共通テスト国語過去問題』（尚文出版） 『新 共通テスト対策 決戦国語完答32+6』（尚文出版）		
【到達目標】		①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
【学習上の留意点】		①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	評論（七） ○言語が見せる世界 評論（八） ○いのちのかたち	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	評論（九） ○リスク社会とは何か 近現代の文章 ○舞姫	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	評論（十） ○目に見える制度と見えない制度 評論（十一） ○現代日本の開化	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○

11月 ～ 12月	2学期 期末	共通テスト対策問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語事項に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 筆者の主張を理解する問題 <input type="checkbox"/> 実用的な文章の問題	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試対策問題演習	同上	○	○	○

年間学習計画表（理数科・B）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
論理国語		2	高等学校 論理国語 〔第一学習社〕	『新訂総合国語便覧』（第一学習社） 『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店） 『読解を深める現代文単語』（桐原書店） 『近現代文学コレクション』（第一学習社） 『総合版 共通テスト国語過去問題』（尚文出版） 『新 共通テスト対策 決戦国語完答32+6』（尚文出版）		
【到達目標】		①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
【学習上の留意点】		①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	評論（七） ○言語が見せる世界 評論（八） ○いのちのかたち	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	評論（九） ○リスク社会とは何か 近現代の文章 ○舞姫	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	評論（十） ○目に見える制度と見えない制度 評論（十一） ○現代日本の開化	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○

11月 ～ 12月	2学期 期末	共通テスト対策問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語事項に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 筆者の主張を理解する問題 <input type="checkbox"/> 実用的な文章の問題	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試対策問題演習	同上	○	○	○

年間学習計画表（A1）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
古典探究		3	精選 古典探究 (古文編・漢文編) [東京書籍]	『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『四訂版重要古文単語315』(桐原書店) 『改訂三版完全マスター古典文法』(第一学習社) 『漢文必携 五訂版』(桐原書店) 『総合版 共通テスト国語過去問題』(尚文出版) 『新 共通テスト対策 決戦国語完答32+6』(尚文出版)		
【到達目標】		<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる。</p> <p>③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
【学習上の留意点】		<p>①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。</p> <p>③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。</p> <p>④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。</p>				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	<input checked="" type="checkbox"/> ○説話2 発心集「蓮花城、入水のこと」 ○日記2 紫式部日記「日本紀の御局」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		<input checked="" type="checkbox"/> ○史記2 荊軻伝「風蕭蕭兮易水寒」 「函窮而匕首見」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	<input checked="" type="checkbox"/> ○作り物語2 源氏物語(二)「須磨の秋【須磨】」 「唐猫の綱【若菜上】」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○

		漢 ○思想3 諸子百家「能近取譬」 「無恒産無恒心」 「侵官之害」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	古 ○歴史物語2 大鏡(二)「三船の才」 「道長、伊周の競射」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		漢 ○小説2 「桃花源記」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	古 ○評論 源氏物語の玉の小櫛 「もののはれの論」 ○作り物語3 とりかへばや物語 「人知れぬもの思ひ」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		入試過去問題演習 共通テスト対策問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 作品や文学史に係る問題	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試過去問題演習	同上	○	○	○

年間学習計画表（A2）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
古典探究		4	精選 古典探究 (古文編・漢文編) [東京書籍]	『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『四訂版重要古文単語315』(桐原書店) 『改訂三版完全マスター古典文法』(第一学習社) 『漢文必携 五訂版』(桐原書店) 『総合版 共通テスト国語過去問題』(尚文出版) 『新 共通テスト対策 決戦国語完答32+6』(尚文出版)		
【到達目標】		<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる。</p> <p>③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
【学習上の留意点】		<p>①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。</p> <p>③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。</p> <p>④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。</p>				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	古 ○説話2 発心集「蓮花城、入水のこと」 ○日記2 紫式部日記「日本紀の御局」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		漢 ○史記2 荊軻伝「風蕭蕭兮易水寒」 「函窮而匕首見」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	古 ○作り物語2 源氏物語(二)「須磨の秋【須磨】」 「唐猫の綱【若菜上】」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○

		漢 ○思想3 諸子百家「能近取譬」 「無恒産無恒心」 「侵官之害」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	古 ○歴史物語2 大鏡(二)「三船の才」 「道長、伊周の競射」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		漢 ○小説2 「桃花源記」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	古 ○評論 源氏物語の玉の小櫛 「もののあはれの論」 ○作り物語3 とりかへばや物語 「人知れぬもの思ひ」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		入試過去問題演習 共通テスト対策問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 作品や文学史に係る問題	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試過去問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 作品や文学史に係る問題	○	○	○

年間学習計画表（理数科・B）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
古典探究		1	精選 古典探究 (古文編・漢文編) [東京書籍]	『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『四訂版重要古文単語315』(桐原書店) 『改訂三版完全マスター古典文法』(第一学習社) 『漢文必携 五訂版』(桐原書店) 『総合版 共通テスト国語過去問題』(尚文出版) 『新 共通テスト対策 決戦国語完答3 2 + 6』(尚文出版)		
【到達目標】		<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる。</p> <p>③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
【学習上の留意点】		<p>①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。</p> <p>③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。</p>				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	古 ○説話2 発心集「蓮花城、入水のこと」 ○日記2 紫式部日記「日本紀の御局」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		漢 ○史記2 荊軻伝「図窮而匕首見」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	古 ○作り物語2 源氏物語(二)「須磨の秋【須磨】」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○

		漢 ○思想3 諸子百家「能近取譬」 「侵官之害」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	古 ○歴史物語2 大鏡(二)「三船の才」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		漢 ○小説2 「桃花源記」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題)	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	古 ○評論 源氏物語の玉の小櫛 「もののはれの論」 ○作り物語3 とりかへばや物語 「人知れぬもの思ひ」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解 (現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解	○	○	○
		入試過去問題演習 共通テスト対策問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 作品や文学史に係る問題	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試過去問題演習	同上	○	○	○

年間学習計画表（A1）

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
文学国語		3	文学国語 [東京書籍]	『新訂総合国語便覧』（第一学習社） 『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店） 『読解を深める現代文単語』（桐原書店）		
【到達目標】		①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②「深く共感する力」「豊かに想像する力」「創造的に考える力」「他者との関わりの中で伝え合う力」を養い、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
【学習上の留意点】		①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②文章の構成や展開、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	随筆1 ○国語から旅立って 小説1 ○檸檬	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
6月～7月	1学期 期末	小説2（I部） ○山椒魚 詩歌	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
9月～10月	2学期 中間	小説3 ○葉桜と魔笛 ○蠅	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
11月～12月	2学期 期末	私大入試対策 問題演習	以下を意識して取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 言語事項に係る問題 <input type="checkbox"/> 文脈・内容を理解する問題 <input type="checkbox"/> 筆者の主張を理解する問題 <input type="checkbox"/> 実用的な文章の問題 作者に係る問題	○	○	○
1月～3月	3学期 学年末	私大入試対策 問題演習	同上	○	○	○

観点別評価ルーブリック

教科 国語
科目 論理国語

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	小テスト 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わるうとする態度を養う。	課題 行動観察 小テスト 定期考査等	課題への取り組みが優れている。自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題への取り組みが標準的である。自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題に取り組む姿勢が乏しい。自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科 国語
科目 古典探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	小テスト 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものを見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる。	定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自己の自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わろうとする態度を養う。	課題 行動観察 小テスト 定期考査等	課題への取り組みが優れている。自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題への取り組みが標準的である。自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題に取り組む姿勢が乏しい。自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科 国語
科目 文学国語

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	小テスト 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる。	定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わるうとする態度を養う。	課題 行動観察 小テスト 定期考査等	課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題に取り組む姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

2 地理歴史科

《地理総合》

○「地理学」とはどのような学問なのか

「地理学」について、『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』では「地表空間における特定地域の自然、人文の諸事象を総合的に把握し、地域的特色を明らかにしようとする学問。」と定義づけられています。すなわち、地球上で起こっている様々な事象について、文理の枠組みにとらわれることなく、総合的な理解を目指している学問であるといえるのではないのでしょうか。

「地理学」には大きく2つのアプローチ方法があります。皆さんが受講する「地理総合」では、主に「系統地理学」的なアプローチで学習を進めていきます。この「系統地理学」は、地理的条件と人類との一般法則を導き出すことを目指す学問分野です。具体的には、地形や気象などの自然現象について考える「自然地理学」と、産業や生活文化などの人間が形成した地表の現象について考える「人文地理学」から構成されています。ちなみに、もう1つのアプローチ方法は「地誌学」といい、特定の地域の状況を体系的に記述することを目指す学問分野です。

○地理を学習する意義

高校生が地理を学習する意義はどこにあるのでしょうか。よく言われるのは「一般教養として知っておくべき」という理由です。もちろん、地理は一般教養としての側面を持っています。知っていることが多い方が、世界がより鮮やかに見えることもあるでしょう。他には「受験科目として必要」という理由を挙げる人も多いと思われます。この理由は、地理を学習する理由として非常に現実的なものです。

しかし、それ以上に地理を学習する大きな意義があります。それは、「現代社会を見る目」を養うことができるということです。地理を学習すると、地形や気象、産業や生活文化など地球上で起こっている事象を分析するために必要な視点を多く獲得できます。18歳で成人、そして有権者になる前に、私たちの暮らす社会について深い考察ができるように地理を学んでいきましょう。

○授業の受け方

「地理総合」の授業は週に2回程度しかありません。1回1回の授業を大切にしてください。もちろん各自の予習や復習も必要ですが、「地理総合」を学習していくうえで核となってくるのは日々の授業です。何を学習するのかという目的意識をもって、毎回の授業に臨んでください。

教材（教科書、地図帳、資料集）は全クラス共通です。授業中いつでも使えるように、各自準備をしてください。ただし、授業の形式は担当の先生によって異なる部分もあります。例えば、配布したプリントを用いて授業を行う先生がいる一方で、各自が用意したノートを用いて授業を行う先生もいるといった具合です。各クラス授業担当の先生に確認をしてください。

○家庭学習の進め方

まずは、「予習—授業—復習」の「黄金サイクル」を確立してください。これは地歴公民科に限らず、全教科にいえることです。授業を核とした学習スタイルを1年生のうちから確立しておくことは、2年後の大学入試に向けても重要となってきます。

特に、地歴公民科においては「復習」を大切にしてください。教科書、地図帳、資料集など、有効な教材が皆さんの手元にあるはずですが、教材は授業で指示された時にしか開かない、というのではもったいないです。特に教科書は本文を読むだけでなく、地図や写真、統計データなど様々な資料にも目を通し、教材を徹底的に使い込みましょう。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
地理総合	3	地理総合〔二宮書店〕	新編フォトグラフィア地理図説2025〔東京法令出版〕 データブック〔二宮書店〕			
【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ● 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ● 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など、概念などを活用して多面的・多角的に考察、地理的な課題の解決に向けて構想、考察、構想したことを効果的に説明、それらを基に議論する。 ● 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ● 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚する。 					
【学習上の留意点】	① 世界地図が、頭の中で描けるようになる。 ② 各国の特色や文化、地形や気象条件・位置を理解しよう。 ③ 世界情勢や現在の状況を把握しよう					
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期中間	第1章 1 球面上の世界 2 世界からみた日本の位置と領域 3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	<input type="checkbox"/> 日本の位置 <input type="checkbox"/> 緯度・経度 <input type="checkbox"/> 時差	○	○	○
6月～7月	1学期期末	第2章 1 地形と生活文化 2 気候と生活文化 3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	<input type="checkbox"/> 地形の特徴 <input type="checkbox"/> 気候区分 <input type="checkbox"/> 工業・商業 <input type="checkbox"/> 三大宗教	○	○	○
9月～10月	2学期中間	第3章 1 経済発展と生活文化の変化（東アジア） 2 宗教の多様性と生活文化（ASEAN諸国） 3 水の恵みと生活文化（南アジア） 4 イスラーム社会の多様性と生活文化 5 多様な気候と生活文化（アフリカ）	<input type="checkbox"/> アジアの経済 <input type="checkbox"/> 中国 <input type="checkbox"/> 韓国 <input type="checkbox"/> イスラーム世界 <input type="checkbox"/> アフリカの国々	○	○	○
11月～12月	2学期期末	6 経済統合による生活文化の変化・EUと周辺諸国 7 寒冷な気候と生活文化（ロシア） 8 グローバル化による生活文化の変化（アメリカ・カナダ） 9 土地開発による生活文化の形成（ラテンアメリカ） 10 植民と移民による生活文化の形成・オセアニア	<input type="checkbox"/> EUについて <input type="checkbox"/> EU世界の産業 <input type="checkbox"/> ロシアの生活 <input type="checkbox"/> アメリカ・カナダの多様性 <input type="checkbox"/> 国の文化	○	○	○
1月～3月	3学期学年末	第4章 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口・食料問題 4 居住・都市問題 第5章 1 日本の自然環境と防災 2 生活圏の諸課題と地域調査・演習問題	<input type="checkbox"/> 環境問題 <input type="checkbox"/> 人口問題 <input type="checkbox"/> エネルギー問題 <input type="checkbox"/> 都市問題 <input type="checkbox"/> 防災について <input type="checkbox"/> 演習	○	○	○

※ 課題テスト…授業担当者の判断による

※ 実力テスト…授業担当者の判断による

《日本史探究》

☆『日本史』を学ぶ意義・目的

「『日本史』は暗記科目」「受験で使うから『日本史』を勉強する」「昔のことを勉強する意味が分からない」等々、『日本史』という科目に関して生徒間で頻繁に交わされる言葉があります。冗談で言っていると思いたいのですが、実際にはかなり本気で言っていると思わざるを得ない状況があり、とても心配している所です。

人間だれでも初めて取り組むことに関しては、かなりの不安や緊張を感じるはずですし、それゆえに失敗してしまうこともあるかもしれません。ただし、2度目以降になれば回を重ねるほど不安や緊張が無くなり、その取り組みはよりスムーズなものとなり、同時に中身も改善されていくものです。言うまでもありませんが、“経験”がもたらしたものです。と言うことは、取り組みをより良いものにしようとするならば、できるだけ多くの“経験”を積みれば良いということになります。ところが、現実には何回“経験”を積んでも全くうまくいかなかった例が数多くあります。どういうことなのでしょう？

“経験”しないよりは“経験”した方が良いことはもちろんですが、どうやらただ単に“経験”しただけではほとんど効果を上げることはできず、一定の効果上げるためには忘れてはいけない非常に大事なポイントがあるのではないかという推測を立てることができそうです。すでに答えがわかっている人もいますが、そのポイントこそが“記憶”と“考察”の2つということになります。いくら“経験”を積んでも忘れてしまったのでは次につながらないし、忘れなくても同じことを繰り返すだけで考えなければ改善はされないのです。

ところで、人間はその一生でどれほどの“経験”をすることができるのでしょうか？1人の人間が“経験”できることおよびその時期はおおよそ決まっており、特に若いうちは何をすることも“経験”が不足しているものです。つまりは、何に取り組んでも初めてのことが多く、うまくいかないことが予想されます。そのような中で可能性に満ちているはずの人生の幅を狭めてしまうことがあるかもしれません。しかし、そのようなことになることを防ぐことは思いのほか難しくはなく、みなさんもすぐに考え付くはずで、そう、先人に学べば良いのです。先人に学ぶことで疑似とは言え“経験”し、本番に向けて“記憶”と“考察”をしておけば、結果に大きな違いが出ることは歴然です。

どうですか？だんだん『日本史』を学ぶ意義が見えてきたのではないかと思います。日本の歴史は我々日本人の祖先たちが歩んできた道であり、様々な“経験”が詰まったものです。参考にならないはずがありません。『日本史』は決して受験で使うために勉強するものではなく、自分の持つ可能性を広げながらできる限り人生を有意義なものにするために勉強するのです。テストが終わったらすぐにでも忘れてしまいそうな暗記ではなく、滅多なことでは忘れないように“記憶”するものなのです。昔のことは未来への鏡であり、『日本史』＝「未来学」なのです。

そして最後に、現在様々な場面で急速に進展している“グローバル”化。みなさんも国際人として活躍することが期待されています。そのような時にも日本人として堂々と振る舞い、語るための根底には自国の歴史や文化が必要になってくると思います。また、自国の歴史や文化を大事にしない者が他国の歴史や文化を大事にできるとは思えません。そのようなことから『日本史』という科目を学ぶことの重要性がいよいよ増しているのではないかと考えています。

☆授業の受け方

『日本史』を学ぶ意義・目的に書いたことを踏まえて、高い意識を持って日々の授業に臨んでほしいと思います。授業ではプリント学習を行う先生、ノートを用意する必要がある先生がいますので、担当の先生に確認してください。教科書・図説・史料集・用語集は常に用意しておく必要があります。

R6年度の授業では、用語集、詳説日本史ノートを授業で使用していきます。

☆受験勉強の進め方

『日本史』は受験のために学ぶわけではないと言いつながら、受験を全く無視することはできないので一応触れておこうと思います。

教科書・図説・史料集など“記憶”する必要のあるものが非常に多いことが分かっているので、とにかくできる限り早い時期から取り組み始めることが重要になります。言うまでもありませんが、始める時期が遅れば遅れた分だけ焦りを生じさせ、勉強に集中できなくなり効率が上がりません。『日本史』は、興味・関心さえ持てばいくらでも自分で学習することができる科目なので、授業で実施されているかどうかということに関係なく取り組むことが可能です。そして単に“記憶”するだけではなく必ずそこに“考察”を加えてください。5W1Hを考えることで記憶が定着していきます。

☆参考書・問題集

様々な所で参考書や問題集が推薦されていますが、それほどこだわる必要は無いと思います。他人が使った良かったものが必ずしも自分に合うとは言いきれません。何も考えずに買ってしまふ生徒の話をよく耳にしますが、ぜひ買う前に自分の目で確認した方が良いと思います。その結果自分には合わないと感じたならば、周りが良いと言いついても買わない勇気を持ち、自分の判断で自信を持って自分が最も見やすいと感じたものを選んでください。それこそがあなたにとって最良の参考書・問題集となるはずです。

まずは原始・古代から近現代までを1冊通して行うことを勧めます。それが終わつたら多くの問題集を解き、夏休みくらいからはテーマ別、記述論述、史料問題集などを勉強してみてください。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
日本史探究		5	詳説日本史 [山川出版社]	新詳日本史 [浜島書店] 日本史重要史料集 [浜島書店] 詳説日本史ノート [山川出版社] 日本史用語集 [山川出版社]		
【到達目標】		① 日本の歴史の展開を、アジアのみならず世界的視野から総合的に考察することによって歴史的見方・考え方を身につけさせる。 ② 日本文化の特色や伝統の形成過程についての認識を深めることによって、国際社会を主体的に生きる日本人としての資質を養う。 ③ 政治・経済・社会・地方などを各時代の史料などを活用しながら多角的にとらえ、歴史的思考力を培う。				
【学習上の留意点】		① 各時代の学習については用語も大切であるが、年表や歴史地図などを活用し5W1Hを意識しつつ「流れ」及び用語の関連性を意識する。 中央の政治を軸としながらも、経済、外交、文化等と関連させ多面的に学習することに留意する。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 律令国家の形成	<input type="checkbox"/> 文化の始まり <input type="checkbox"/> 農耕社会の成立 <input type="checkbox"/> 古墳文化の展開 <input type="checkbox"/> 飛鳥の朝廷 <input type="checkbox"/> 律令国家への道 <input type="checkbox"/> 平城京の時代 <input type="checkbox"/> 律令国家の文化 <input type="checkbox"/> 律令国家の変容	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6月～7月	1学期 期末	第3章 貴族政治の展開 第II部 中世 第4章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	<input type="checkbox"/> 摂関政治 <input type="checkbox"/> 国風文化 <input type="checkbox"/> 地方政治の展開と武士 <input type="checkbox"/> 院政の始まり <input type="checkbox"/> 院政と平氏政権 <input type="checkbox"/> 鎌倉幕府の成立 <input type="checkbox"/> 武士の社会 <input type="checkbox"/> モンゴルの襲来と幕府の衰退 <input type="checkbox"/> 鎌倉文化	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9月～10月	2学期 中間	第7章 武家社会の成長 第III部 近世 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	<input type="checkbox"/> 室町幕府の成立 <input type="checkbox"/> 幕府の衰退と庶民の台頭 <input type="checkbox"/> 室町文化 <input type="checkbox"/> 戦国大名の登場 <input type="checkbox"/> 織豊政権 <input type="checkbox"/> 桃山文化 <input type="checkbox"/> 幕藩体制の成立 <input type="checkbox"/> 幕藩社会の構造 <input type="checkbox"/> 幕政の安定 <input type="checkbox"/> 経済の発展 <input type="checkbox"/> 元禄文化	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11月～12月	2学期 期末	第10章 幕藩体制の動揺 第IV部 近代・現代 第11章 近世から現代へ 第12章以降の復習	<input type="checkbox"/> 幕政の改革 <input type="checkbox"/> 宝暦・天明期の文化 <input type="checkbox"/> 幕府の衰退と近代への道 <input type="checkbox"/> 化政文化 <input type="checkbox"/> 開国と幕末の動乱 <input type="checkbox"/> 幕府の滅亡と新政府の発足 <input type="checkbox"/> 歴史総合での既習事項の復習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1月～3月	3学期 学年末	日本史の総合演習	<input type="checkbox"/> 問題演習（通史、テーマ史） <input type="checkbox"/> 歴史総合での既習事項の復習	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>

※ 課題テスト：授業担当者の判断による

※ 実力テスト：授業担当者の判断による

【世界史を学ぶにあたって】

3年世界史探究では、2年歴史総合で学習した範囲と繋がる時代の学習を行います。「世界史」と聞くと、「外国の…」 「過去の…」 「今の自分には関係のないこと…」 という感情を持つ人もいるかもしれませんが、実際には「今の私たちに」すべてが繋がっているのです。世界史で起こる諸現象には、すべて「因果関係（原因と結果）」があり、それによって人間社会は大きく動いています。人類がどのように社会を築き上げてきたのか、何が平和や安定をもたらし、何が悲劇や破滅へと導いたのか、それらを過去の多くの事例から解き明かすことによって、私たちはこれからの社会をどのように築くべきなのか、たくさんの手がかりを得ることができます。

つまり、歴史とは「過去を知ることを通して未来を考える」学問です。現在の世界情勢を見ても、実に混沌として様々な問題があふれていますが、それらも過去の歴史の中に発端を見出すことができます。逆に、歴史を学ばず過去の失敗を知らないということは、自分の生きている現在がなぜこのような姿なのかを正しく理解できず、あるいは大きな過ちを繰り返す危険を抱えることにもなります。これは、将来どんな分野で活躍する人にとっても重要なことです。歴史の知識は、良き未来の担い手となる皆さんにとって、知恵の一助となるはずです。

【3年世界史探究の学習方法】

3年生になると、自分の勉強スタイルが確立されてきている人も多いと思います。大切なことは、他教科とのバランスを考えながら、スキマ時間を上手く活用して日頃の授業でしっかり内容を身につけておくことこそが、最善の「試験対策」です。以下は、世界史を学習する上で意識すべき事ですので参考にしてください。

①何よりも先に、基礎づくりを進める。

大学受験世界史における基礎は「教科書の内容を把握すること」です。しっかり教科書を熟読して基礎づくりをしましょう。この基礎づくりの時に意識すべきは「流れを掴むこと」です。「社会科目＝暗記」と考えている人もいますが、「暗記してから次の単元へ…」ではなく「大枠の流れを掴んでいく」ことが大切です。流れを掴むというのは「歴史の因果関係をきちんと把握する」ことから始まります。それぞれの出来事の関係や繋がりを意識しながら、教科書や授業ノートを読むことがポイントです。歴史科目の論述問題はそのような因果関係を問うものが多く、流れを掴んでいないと対応できません。それだけでなく、年代を問われる問題などでは、流れをしっかりと掴んでいれば、年号を正確に覚えていなくても因果関係で答えが分かることも多々あります。世界史における「流れ」は本当に大事です。

②たくさんアウトプットすることで、記憶の定着をはかる。

問題集にしる、過去問を解く時も、最も大切な事は「解きっぱなしにしない」ことです。間違えた問題を解き直すことは当たり前ですが、正解した問題についても「勘で解いたら、たまたま正解した問題なのか」を見極めましょう。もし勘で解いていたのなら、それは理解しきれていない証拠です。必ず教科書で確認しましょう。自分の知識の欠けている部分を知ることができます。完璧に全問正解する必要はありません。本番で正解すればいいのです。どんどん問題を解き、アウトプットすることに意味があります。問題集を選ぶ際は、「はじめに」で目的や難易度を確認し、「解説」を読んで分かるかどうか等をポイントに、自分に合うものを使うと良いですよ。

③日本を含めた、世界のニュースに関心を持つ。

世界史を学ぶ上で、実はこれこそが最も大切な姿勢です。現在の世界を把握している人は、過去の出来事を学んだときに、「だからこの地域は今こうなっているのか」「だからこの国とこの国はこういう関係になったのか」と、時間と空間の「縦軸」と「横軸」が繋がる感覚を体感できると思います。その感覚を身につける事こそが、世界史のエキスパートになる一番の肝です。楽しみながら、ワクワクしながら、共に学びましょう。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
世界史探究		5	詳説 世界史 [山川出版社]	アカデミア世界史 [浜島書店] 詳説世界史ノート [山川出版] 世界史用語集 [山川出版]		
【到達目標】		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色を考察し、思考力、判断力、表現力等を一層育み、地球世界の課題をその解決を視野に、主体的に探究する力を育成することを目指します。				
【学習上の留意点】		①地域の交流と再編について、因果関係をもとに考察し、理解を深めることができたのか。 ②諸地域の統合・変容について、因果関係をもとに考察し、理解を深めることができたのか。				
月	考査	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 1 文明の成立と古代文明の特質 2 中央ユーラシアと東アジア世界 3 南アジア世界と東南アジア世界の展開 4 西アジアと地中海周辺の国家形成 5 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界	<input type="checkbox"/> 古代オリエント文明 <input type="checkbox"/> 南アジアの古代文化 <input type="checkbox"/> 中国の古代文明 <input type="checkbox"/> 南北アメリカ文明 <input type="checkbox"/> 秦・漢と中国の動乱 <input type="checkbox"/> 仏教の成立と南アジア統一 <input type="checkbox"/> インド古典文化と ヒンドゥー教の定着	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 6 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 7 ヨーロッパ世界の変容と展開 8 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 9 大交易・大交流の時代	<input type="checkbox"/> イラン諸国家の興亡と文明 <input type="checkbox"/> ローマと地中海支配 <input type="checkbox"/> キリスト教の成立と発展 <input type="checkbox"/> イスラーム政権の成立 <input type="checkbox"/> イスラーム教の伝播 <input type="checkbox"/> 西ヨーロッパの封建社会 <input type="checkbox"/> 東ヨーロッパ世界の展開 <input type="checkbox"/> 西ヨーロッパ世界の変容	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	1 0 アジアの諸帝国の繁栄 1 1 近世ヨーロッパ世界の動向 第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 1 2 産業革命と環大西洋革命 1 3 英国の優位と欧米国民国家の形成	<input type="checkbox"/> オスマン帝国とサファヴィー朝 <input type="checkbox"/> 清代の中国と隣接地域 <input type="checkbox"/> ルネサンス、宗教改革 <input type="checkbox"/> 蘭・英・仏の台頭 <input type="checkbox"/> 産業革命 <input type="checkbox"/> アメリカ合衆国の独立と発展 <input type="checkbox"/> ウィーン体制	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	1 4 アジア諸地域の動揺 1 5 帝国主義とアジアの民族運動 1 6 第一次世界大戦と世界の変容 1 7 第二次世界大戦と新しい国際秩序 第Ⅳ部 地球世界の課題 1 8 冷戦と第三世界の台頭 1 9 冷戦の終結と今日の世界	<input type="checkbox"/> 西アジア地域の変容 <input type="checkbox"/> 南・東南アジアの植民地化 <input type="checkbox"/> 第2次産業革命と帝国主義 <input type="checkbox"/> 列強の世界分割と列強の二分化 <input type="checkbox"/> 第一次世界大戦とロシア革命 <input type="checkbox"/> ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 <input type="checkbox"/> 第二次世界大戦 <input type="checkbox"/> 冷戦の展開 <input type="checkbox"/> 第三世界の台頭とキューバ危機	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	世界の全体像概観（年間のまとめ）	<input type="checkbox"/> 冷戦の終結 <input type="checkbox"/> 今日の世界 <input type="checkbox"/> 現代文明の諸相	○	○	○

※ 課題テスト：授業担当者の判断による

※ 実力テスト：授業担当者の判断による

《地理探究》

☆「地理」を学ぶ意義・目的

広い視野で世界を見渡し、過去・現在起きていること、今後起こりうることを自分の視点で検証・分析する力をつける。

「受験に使うから」… 勿論、学ぶ目的として、確かにそれもあります。しかし、「地理」を学ぶ本当の意義・目的は、広い視野で世界を見渡し、過去・現在起きていること、今後起こりうることを自分の視点で検証・分析する力をつけることです。「地理」は、「日本史」「世界史」「現代社会」「政治経済」など他科目と大きく関わります。そして、他科目の知識を土台にした地理探究の問題が、センター試験や私大入試で数多く出題されているのが事実です。また、そういった横断的な知識を要する問題で失点している受験生が多いのも、また事実です。

〔例1〕ヨーロッパの農業の発達

→ 「地理探究」の、ヨーロッパ地誌で扱いますが、皆さんが2年生で習った「歴史総合」と大いにリンクしています。例えば、「アヘン戦争」の舞台裏、「三角貿易」があります。イギリスからインドへ綿織物が、インドから清へアヘンが…」という三角図を見たことがあるでしょう。イギリスの綿織物は、ランカシャー地方で産業革命期に発達したものです。ランカシャー地方がどこにあり、どのような気候なのか。気候と産業は大きく関わります。

〔例2〕アメリカの工業の発達

→ 「地理探究」の北アメリカ地誌で扱いますが「現代社会」「政治経済」と大いにリンクしています。例えば、アメリカのトランプ氏は、「ラストベルト（錆びついた工業地帯）」と呼ばれる地域の白人労働者からの熱烈な支持を背景に、2016年11月の大統領選に勝利、2017年1月に大統領に就任しました。この「ラストベルト（錆びついた工業地帯）」がどこにあり、どのような工業を推し進めたのか、なぜ「錆びついた」のか。こういった現在のニュースに繋がる知識を学びます。

☆授業の受け方

受験に使う・使わないに関係なく、上記の意義・目的を正しく理解して授業を受けてください。「地理探究」の授業を通して外国のニュースに興味を持ったり、日本について更に理解を深めたりすることが大切です。

☆受験勉強の進め方

「地理探究」は1年生の「地理総合」を基礎知識として行う科目で、授業時数も決して十分とは言えません（普通科4単位または3単位）。そこで教科書を購入したら一読するだけで結構ですので、可能な限り予習を進めて下さい。基本的な知識が頭に入っている状態で授業を受け、授業後は必ず復習して下さい。統計資料の分析等の細かいところも含めてです。共通テスト・過去のセンター試験・私大の過去問演習は、夏休みからで十分です。あまり古い過去問になると、統計資料が授業内容と違ってくるので、過去5年分くらいを何回も解きましょう。そして、既習範囲で失点した箇所は、教科書や資料集に戻って何度も確認し、ノート整理しましょう。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
地理探究		3	地理探究〔二宮書店〕	新編フォトグラフィア地理図説2025〔東京法令出版〕 データブック〔二宮書店〕		
【到達目標】		地図や統計資料の分析を、早く正確の行える力を身に着ける。 与えられた地理的情報をもとに、正しい地理的思考をする力を身に着ける 諸地域の課題と特色を理解し、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。				
【学習上の留意点】		① 世界地図が、頭の中で描けるようになる。 ② 資料分析のために必要な、正しい知識を身に着けているか。 ③ 日々のニュースに関心を持ち、自己の見解をもとに主体的に判断することができたか。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・ 技能	思考・判 断・表現	主体的に学 習に取り組 む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第Ⅰ編 現代社会の系統地理的考察 第1章 自然環境 第2章 資源と産業 第3章 人・モノ・金のつながり 第4章 人口・村落・都市	<input type="checkbox"/> 地形・気候・生態系 <input type="checkbox"/> 地球環境・人口・貿易・観光 <input type="checkbox"/> 世界各地の自然と生活 <input type="checkbox"/> 日本の自然環境と防災	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第5章 文化と国家	<input type="checkbox"/> 生活文化・言語・宗教 <input type="checkbox"/> 領域・領土・民族 <input type="checkbox"/> 海洋国家としての日本 <input type="checkbox"/> 国際連合の役割	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第Ⅱ編 現代社会の地誌的考察 第1章 地域区分 第2章 現代社会の諸地域	<input type="checkbox"/> さまざまな地域区分 <input type="checkbox"/> 地域区分の目的と方法 <input type="checkbox"/> 地誌の考察方法 <input type="checkbox"/> 東アジア <input type="checkbox"/> 東南アジア	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2章 現代社会の諸地域	<input type="checkbox"/> 南アジア・西アジア・ 中央アジア <input type="checkbox"/> アフリカ <input type="checkbox"/> ヨーロッパ <input type="checkbox"/> ロシア <input type="checkbox"/> アンソロアメリカ・ラテンア メリカ・オセアニア	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの 日本の国土像 地理の総合演習	<input type="checkbox"/> 現代に求められる国土像 <input type="checkbox"/> 2050年の日本の姿 <input type="checkbox"/> 地図とGPS <input type="checkbox"/> 演習問題	○	○	○

※課題テスト…授業担当者の判断による

※実力テスト…授業担当者の判断による

観点別評価ルーブリック

教科
科目
地理歴史
地理総合

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<p>【知識】 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。</p> <p>【技能】 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>講義型授業 対話型授業 調べ学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>
思考・判断・表現	<p>【着目】 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互作用、地域など概念などを活用して多面的・多角的に考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地理的な課題の解決に向けて構想する。 ・ 考察、構想したことを効果的に説明する。 ・ それらを基に議論する。 	<p>考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> <p>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に誇り愛する愛憎、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするなどの大切さについての自覚する。</p>	<p>講義型授業 対話型授業 調べ学習 学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>

観点別評価ルーブリック

教科 地理歴史
科目 地理探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<p>【知識】 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。</p> <p>【技能】 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>【着目】 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互作用、地域などを考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念などを活用して多面的・多角的に考察する。 ・地理的な課題の解決に向けて構想する。 ・考察、構想したことを効果的に説明する。 ・それらを基に議論する。 	<p>講義型授業 対話型授業 調へ学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>
思考・判断・表現	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> <p>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛着、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚する。</p>	<p>考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>
主体的に取り組む態度		<p>講義型授業 対話型授業 調へ学習 課題解決する学習 説明する学習 議論する学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>

3 公民科

1. 「最終完成科目として」

3年生の公民科は、3年間の社会科学(地歴科・公民科)学習の完成科目といえます。これまでに学んだ知識がつながっていき、さらに深く理解していける段階に進むからです。受験科目に限定して、窓を閉ざしてしまうのはもったいないことです。実際、他の授業で学んだことが受験で思いがけず役に立った、ということは社会科学の科目同士ではよくあることですし、教科を超えた教養や理解に達する喜びを感じさせてくれることすらあります。共通テストに限らず、特に論述の問題に解答するためには、幅広く全体を見渡す視野が欠かせません。広く、そして深く、学んで下さい。大学に入学してからの研究にも必ず役立つはずで、また、受験科目ではなかったのに、という言い訳は社会では通用しません。社会に出てからも幅広く深い教養は必要不可欠です。

2. 1年生の公共との連携

1年生に全員が「公共」を履修しています。その中で、「倫理」および「政治・経済」と重複する分野があります。「倫理」では「青年期の心理」など、政治・経済では「憲法」をはじめとする多くの分野です。そこで3年生の「倫理」、「政治・経済」では、現代社会で扱った分野と重複しないように授業を計画します。年によって、進度の差が出る場合もあるので、その場合は調整して授業を行います。

3. 「倫理」

高校の学習科目としての倫理は、端的に言えば“思想カタログ”の性格を持つ。将来、上級学校で専門的に深く学ぶのもいいし、人生の指針や生活上に役立つ知識教養として身につける努力もよいだろう。そのための基本・ベースになるものを、人類の歴史に沿う流れで学んでいくことになる。範囲としては、宗教や青年期なども含まれる。単位数は多くないので、高校倫理の内容をすべて授業で扱うのは難しいので、希望に応じて長期休業中に進学のための補習を行う予定があるので、必要な者は早めに申し出てほしい。試験のポイントとしては、専門用語が多く登場する科目であり、その理解と整理が肝要なのは、定期考査でも共通テストなどでも変わらない。問題を考えたり、記述を理解するためのベースである。

4. 「政治・経済」

「何を勉強したらいいかわからない！」

⇒実際の受験問題を解いてみよう。ゴール(頂上)を見ておけばおのずと対策(ルート)が見えてくる。

日本史や世界史と迷っている人は志望校の入試問題を解いて比べてみてください。登れそうな山はどれか？

それから、政治・経済、公共では新聞(ニュース)は必須です。できれば毎日、新聞に目を通してください。

「おすすめの参考書・問題集はありますか？」

⇒政治・経済(公民)の参考書・問題集は圧倒的に種類が少ない！なるべく大きな書店に行って、自分に合ったものを選んでください。そして必ず最新のものを使ってください。政治・経済は動いています。古い問題集は要注意です。

疑問が生じたら、いつでも引ける辞書として、手元において勉強してください。私大入試のほとんどは自分で解決できます！

「同じ問題集を繰り返しやる必要がありますか？」

⇒地理歴史科、公民科の場合は、2～3冊の問題集を解いた方が有効です。違う角度からの出題に慣れることが必要です。教科書のすべての範囲を終わらせることができなくても、2学期に入ったら問題演習に取り組んで下さい。模試で出た問題など、勉強したことをすべて1つのノートにまとめておくと、受験のお守りになります！

5. 「公共探究」

本校独自の設定科目であり、Bコース向けに開講します。Bコースでは「政治・経済」・「倫理」を履修することができません。そこで、本講座はAコース向けの「政治・経済」・「倫理」をダイジェスト版として3単位扱いで学習することになります。まずは1年生のときに学習した「公共」の内容を確認しながら、授業を進めていきます。「政治・経済」に関しては経済を重点的に学習することで、「公共」の内容を補完しつつ、現代社会の課題を捉えます。また、「倫理」は先哲の思想を学びながら、今日の論争的課題の是非をともに考えていく予定です。なお、本講座を受講し、受験科目で各公民科科目を選択する予定の人は、開講時に担当者へ申し出て下さい。本講座のみでは受験に十分対応できない可能性がありますので、要相談です。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
政治・経済	2	政治・経済〔東京書籍〕	ズームアップ政治・経済資料			
【到達目標】	<p>社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念</p> <p>や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>様々な資料から多様な考え方の存在を知り、主権者として責任ある判断を下す知識、能力を身に付ける。</p>					
【学習上の留意点】	<p>① 新聞やニュースから、社会の動きを読み取り、関心を持ち続ける。</p> <p>② 政治や経済の諸問題について、他人事とせずに、自身の問題という意識を持つ。</p> <p>③ 授業をきっかけに社会的視野の拡大に努め、多様な考え方の存在を理解するとともに、授業プリントや教科書、資料集を活用して必要な知識を身に付ける。</p>					
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期中間	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則 3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題	<input type="checkbox"/> 民主政治の成立 <input type="checkbox"/> 民主主義の諸原理 <input type="checkbox"/> 日本国憲法の制定と基本原則 <input type="checkbox"/> 国会と立法 <input type="checkbox"/> 内閣と行政 <input type="checkbox"/> 裁判所と司法 <input type="checkbox"/> 地方自治 <input type="checkbox"/> 戦後政治と政党	○	○	○
6月～7月	1学期期末	第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ 3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題 第3章 現代日本の諸課題	<input type="checkbox"/> 経済活動の意義 <input type="checkbox"/> 資本主義経済の発展と変容 <input type="checkbox"/> 経済主体と経済の循環 <input type="checkbox"/> 市場経済の機能と限界 <input type="checkbox"/> 金融の仕組みと機能 <input type="checkbox"/> 戦後日本経済の発展 <input type="checkbox"/> 公害と環境保全	○	○	○
9月～10月	2学期中間	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ 2節 複雑化する国際政治と日本	<input type="checkbox"/> 国際政治の特質 <input type="checkbox"/> 国際社会と国際法 <input type="checkbox"/> 戦後国際関係の展開と日本	○	○	○
11月～12月	2学期期末	第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済 2節 世界経済の現状と課題	<input type="checkbox"/> 貿易と国際収支 <input type="checkbox"/> 戦後国際経済体制の展開 <input type="checkbox"/> グローバル化する国際経済 <input type="checkbox"/> 地球環境問題	○	○	○

1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3章 国際社会の諸課題	<input type="checkbox"/> グローバル化にともなう社会 変容 <input type="checkbox"/> 地球環境と資源・エネ ルギー問題 <input type="checkbox"/> 国際的な経済格 差の是正	○	○	○
---------------	------------	--------------	--	---	---	---

※ 課題テスト：

※ 実力テスト：

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
倫理		2	倫理 [東京書籍]	テオーリア最新倫理資料集		
【到達目標】		<p>・ 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>・ 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。</p>				
【学習上の留意点】		<p>①資料から、現代の諸課題をとらえ、より深い考えを導き出すための理論を理解する。</p> <p>②現代的生き方の倫理的課題を把握しよう</p> <p>③論理的に考え、対話する力をつけよう</p>				
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方 第1章 人間の心のあり方 1節 人間とは何か 2節 人間の心の働き	<input type="checkbox"/> 人間の特質 <input type="checkbox"/> 青年期の課題 <input type="checkbox"/> 認知 <input type="checkbox"/> 感情と個性 <input type="checkbox"/> 発達	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第2章 さまざまな人生観 ・ 倫理観・世界観 I 1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術	<input type="checkbox"/> 人間と哲学 <input type="checkbox"/> 哲学の誕生と自然哲学 <input type="checkbox"/> 集団的な現象としての宗教 <input type="checkbox"/> 『旧約聖書』の倫理 <input type="checkbox"/> ムハンマドとイスラームの教え <input type="checkbox"/> 古代インドの思想 <input type="checkbox"/> 孔子と儒家の思想 <input type="checkbox"/> 美の発見と芸術の創造・鑑賞	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第3章 さまざまな人生観 1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり	<input type="checkbox"/> 人間主体の時代 <input type="checkbox"/> 新しい学問の方法 <input type="checkbox"/> カント — 人格の尊厳 <input type="checkbox"/> 功利主義と幸福 <input type="checkbox"/> 世界をとらえる知のあり方 <input type="checkbox"/> 存在への問い <input type="checkbox"/> 他者と言語	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚	<input type="checkbox"/> 仏教と日本人の思想形成 <input type="checkbox"/> 儒教と日本人の思想形成 <input type="checkbox"/> 国学の思想 <input type="checkbox"/> 庶民の思想	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第2編 現代の諸課題と倫理	<input type="checkbox"/> 生命 <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 科学技術 <input type="checkbox"/> 福祉 <input type="checkbox"/> 文化と宗教 <input type="checkbox"/> 戦争と平和	○	○	○

※ 課題テスト…授業担当者の判断による

※実力テスト…授業担当者の判断による

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
公共探究		3	政治・経済 [東京書籍]	ズームアップ政治・経済資料		
【到達目標】		現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。また、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。				
【学習上の留意点】		① あらゆる社会的課題を自分事として捉え、主体的に授業へ参加しましょう。 ② 日ごろからニュースに目を通し、世界情勢を把握するように努めましょう。 ③ プリントやノートを有効的に活用し、定期考査への準備を怠らないようにしよう。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則 3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題	<input type="checkbox"/> 民主政治の成立 <input type="checkbox"/> 日本国憲法の制定と基本原則 <input type="checkbox"/> 国会と立法 <input type="checkbox"/> 戦後政治と政党	○	○	
6月～7月	1学期 期末	第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ 3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題 第3章 現代日本の諸課題	<input type="checkbox"/> 経済活動の意義 <input type="checkbox"/> 経済主体と経済の循環 <input type="checkbox"/> 戦後日本経済の発展 <input type="checkbox"/> 公害と環境保全	○	○	○
9月～10月	2学期 中間	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ 2節 複雑化する国際政治と日本	<input type="checkbox"/> 国際政治の特質 <input type="checkbox"/> 国際社会と国際法 <input type="checkbox"/> 戦後国際関係の展開と日本	○	○	
11月～12月	2学期 期末	第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済 2節 世界経済の現状と課題	<input type="checkbox"/> 貿易と国際収支 <input type="checkbox"/> 戦後国際経済体制の展開 <input type="checkbox"/> グローバル化する国際経済 <input type="checkbox"/> 地球環境問題	○	○	○
1月～3月	3学期 学年末	第3章 国際社会の諸課題	<input type="checkbox"/> グローバル化にともなう社会変容 <input type="checkbox"/> 地球環境と資源・エネルギー問題 <input type="checkbox"/> 国際的な経済格差の是正	○	○	○

※ 課題テスト：授業担当者の指示による

※ 実力テスト：授業担当者の指示による

観点別評価ルーブリック

公民
政治経済

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる 得点率	該当問題をおおむね満足できる 得点率	該当問題について努力を要する 程度の得点率
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に思われる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる 得点率	該当問題をおおむね満足できる 得点率	該当問題について努力を要する 程度の得点率
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる 得点率	該当問題をおおむね満足できる 得点率	該当問題について努力を要する 程度の得点率

観点別評価ルーブリック

公民
公共探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するため必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる 得点率	該当問題をおおむね満足できる 得点率	該当問題について努力を要する程度 の得点率
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実に基づき多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れたから構想したことを議論する力を養う。	考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる 得点率	該当問題をおおむね満足できる 得点率	該当問題について努力を要する程度 の得点率
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察し深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きるとして国民主体を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 議論する学習	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

4 数学科

1 『基礎学力は定理・公式を覚えることから始める！』

受験勉強のスタートとして、まず基礎となる定理・公式の確認をしましょう。不安な人は教科書や問題集の例題等を、定理・公式を確認しながら解くことによって使いながら覚えて下さい。よく公式は導くものと言われますが、すべての公式を入試会場で導いては、試験時間はすぐに終わってしまいます。そこで基本的な公式については、

- ①考えずに書ける ②いつでも導ける ③活用の場面とリンクさせる

を目標にしっかり覚えましょう。

2 『予習・授業・復習のサイクルを確立する！』

3年の授業では演習によるものが多くなります。その際には、授業範囲の問題は自分の力で解いておく予習が前提となります。さらに、他人に対して自分の考えを論理的に伝えられるまでにまとめ、整理しておくことが必要です。

次に、学校の授業で学んだことを確実に身につけるためには、復習が重要です。授業の後で、問題だけ見て解答を再現してみると、あれ!?!ということがよくあります。そこで実は完全には理解できていなかったことに気がつきます。復習では、その日の授業の内容も含めて再現し、鉛筆を持って答案を作ることを心掛けましょう。数学は覚えることと考えることの両方が要求される科目です。「わかった!」と思っても、実際に計算してみると行き詰まることも少なくありません。問題を解いたり公式を証明したりするときには、方針が立ったら終わりにするのではなく、ノートにきちんと書いてみましょう。

これらのサイクルを繰り返していくことで、計算力と答案作成能力の向上に繋がります。

3 『数学ⅠAと数学ⅡBCの比重に注意して基礎学力の充実を目指す！』

4月から6月は受験の基礎学力をつける時期です。教科書や問題集の例題等が完璧に解けるレベルが目標です。さらに、理系の人と国立文系で2次試験に数学がある人（以下、「2次型の人」と表す）は受験問題集の予習・復習に力を入れましょう、その際には参考書の活用が有効です。

そして、数学ⅠAと数学ⅡBCとではやらなければならない分量に大きな差があるので、計画を立てるときには数学ⅡBCの比率を増やしておきましょう。数学ⅡBCの問題は、計算量が多く数学ⅠAの内容を利用して解く場合も多いので、数学ⅠAの分野の理解の確認にもなります。

4 『夏休みは弱点の克服と得意分野を作る学習にあてる！』

夏休みは、1学期の復習や学校の夏期講習への参加などが考えられますが、この時期を利用して弱点の克服と得意分野を作ることがポイントです。4月から6月の勉強の中で基礎学力の充実を目標に学習を進めてきても、弱点苦手分野は残るものです。共通テスト型の人には基礎から標準レベルの問題に取り組んで苦手分野を解消して下さい。2次型の人にもこの時期に苦手分野を克服しましょう。さらに、得意分野をいくつか作っておくと、秋以降の学習を順調に進めることができます。

5 『9月以降は実戦レベルの問題で知識の整理と演習をする！』

共通テスト型の人で、ある程度基礎学力にめどがついてきた人は、4、5年分の共通テストおよびセンター試験の過去問を解いてみましょう。意外に難しく感じる人が多いかもしれません。特に数学ⅡBは論理的なものや解法が面倒なものも出題されています。また、センター試験・共通テスト独特の客観形式に慣れることも大きな課題です。

学力とは別に、共通テストの難しさには「時間」というものがあります。文章量や計算量が多いので、かなりのスピードで問題を解いていかないと高得点は望めません。常日頃から、時間を計りながら問題を解き、できるだけ時間のかからない解法を選択するなどの、時間的感覚を身につけて下さい。計算も怠らずやり、計算力をつけるようにして下さい。このようなことを心掛けていけばかなり速く問題が解けるようになります。

2次型の方は、志望大学の過去問を解いてみましょう。時間を計りながらチャレンジしてみると、かなりきついという印象をもつかもかもしれませんが、この時期にあまりできなくても構いません。志望校の傾向を知り、自分の学力と過去問との差を測るのが目的だからです。標準・応用問題対策を行うことがこの時期の目標です。また、答案を書く練習も大切にしましょう。

直前期は実戦力完成期ですから、試験時間に合わせた実戦的な問題演習を通じて、受験環境に慣れておくことが大切です。生活面では、十分な睡眠(6~7時間ぐらい)、早起き習慣、夜型の学習から昼型の学習への変更、インフルエンザ対策などを心掛けて下さい。

6 『書籍』など

基礎基本の確認から受験対策まで、教科書やチャート等、学校で購入しているもので十分対応できます。まずはこれらをしっかりとこなしましょう。また、スタディサプリを活用することもお勧めです。より基礎基本を中心に組みたいとか、応用問題により多くチャレンジしたいという人は、多くの出版社から様々な参考書や問題集が出ているので、教科担当の先生とも相談して自分に合ったものを探して下さい。

年間学習計画表 **普通B**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
数学Ⅲ		4	数学Ⅲ 数学C [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」		
数学C		3		共通テスト問題集他		
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。				
【学習上の留意点】		② 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ③ 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅲ」第2章 極限 第2節 関数の極限 「数学Ⅲ」第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	<input type="checkbox"/> 関数の極限関数の連続性 <input type="checkbox"/> 微分係数と導関数 <input type="checkbox"/> 導関数の計算 <input type="checkbox"/> 曲線の方程式と導関数	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学Ⅲ」第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用 「数学Ⅲ」第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	<input type="checkbox"/> 接線の方程式 <input type="checkbox"/> 平均値の定理 <input type="checkbox"/> 関数の値の変化 <input type="checkbox"/> 関数のグラフ <input type="checkbox"/> 方程式・不等式への応用 <input type="checkbox"/> 不定積分 <input type="checkbox"/> 置換積分と部分積分 <input type="checkbox"/> いろいろな関数の不定積分 <input type="checkbox"/> 定積分関数 <input type="checkbox"/> 面積 <input type="checkbox"/> 体積 <input type="checkbox"/> 曲線の長さ	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	「チャート式 解法と演習」	<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	「チャート式 解法と演習」	<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習 <input type="checkbox"/> 共通テスト対策	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「チャート式 解法と演習」	<input type="checkbox"/> 2次試験等対策総合演習	○	○	○

※ 課題テスト：

※ 実力テスト：

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
SS理数数学特論Ⅱ		7	数学Ⅲ 数学C [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」 共通テスト問題集他		
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。				
【学習上の留意点】		④ 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ⑤ 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ⑥ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	「数学Ⅲ」第2章 極限 第2節 関数の極限 「数学Ⅲ」第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	□関数の極限関数の連続性□微分係数と導関数□導関数の計算 □曲線の方程式と導関数	○	○	○
6月～7月	1学期 期末	「数学Ⅲ」第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用 「数学Ⅲ」第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	□接線の方程式 □平均値の定理 □関数の値の変化 □関数のグラフ□方程式・不等式への応用 □不定積分 □置換積分と部分積分 □いろいろな関数の不定積分 □定積分関数□面積 □体積 □曲線の長さ	○	○	○
9月～10月	2学期 中間	「チャート式 解法と演習」	□2次試験等対策総合演習	○	○	○
11月～12月	2学期 期末	「チャート式 解法と演習」	□2次試験等対策総合演習 □共通テスト対策	○	○	○
1月～3月	3学期 学年末	「チャート式 解法と演習」	□2次試験等対策総合演習	○	○	○

※ 課題テスト：

※ 実力テスト：

観点別評価ルーブリック

教科
科目
数学
数学探究 (A1・A2コース)

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数学全般についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	課題調査 定期調査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・数学全般において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 	課題調査 定期調査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。 自己の思考や判断についての表現力が優れている。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。 自己の思考や判断についての表現力が標準的である。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。 自己の思考や判断についての表現力に乏しい。
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、自分の得意・不得意な分野を把握し、修練・改善したりしようとしている。 	提出物 課題調査 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科 数学
科目 数学ⅢC

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<p>・関数、極限、微分積分についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</p>	課題調査 定期調査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	<p>関数、極限、微分積分において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	課題調査 定期調査 等	該当問題の得点率が十分満足でき る。 自己の思考や判断についての表現 力に優れている。	該当問題の得点率がおおむね満足 できる。 自己の思考や判断についての表現 力が標準的である。	該当問題の得点率が努力を要する 状態である。 自己の思考や判断についての表現 力に乏しい。
主体的に 学習に取り組む 態度	<p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、自分の得意・不得意な分野を把握し、修練・改善したりしようとしている。</p>	提出物 課題調査 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取 り組み状況が良好で、自己の学習 への振り返り・改善への意欲・行 動が優れている。	課題の提出状況および授業への取 り組み状況が良好で、自己の学習 への振り返り・改善への意欲・行 動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取 り組み状況が良好で、自己の学習 への振り返り・改善への意欲・行 動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目
理数
SS理数数学特論

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 関数、極限、微分積分および数学全般についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	課題考査等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 関数、極限、微分積分および数学全般において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 	課題考査等	該当問題の得点率が十分満足できる。 自己の思考や判断についての表現力が優れている。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。 自己の思考や判断についての表現力が標準的である。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。 自己の思考や判断についての表現力に乏しい。
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、自分の得意・不得意な分野を把握し、修練・改善したりしようとしている。 	提出物 課題考査 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

5 理科

◆ 理科という教科

「理科」は、自然のなかのしくみを考えるための科目です。私たちの生きているこの世界、宇宙、地球、物質、生物、自然現象について学習していきます。「理科」は「科学」とも呼ばれ、人類は自然のしくみを解き明かし、科学技術を発展させ、文明を作り上げてきました。

科学の学習では、まず、自然のなかにある「事物・現象」に関心をもち、「なぜ？ どうして？」という問いに気づき、その答えを観察や実験によって追求し、見つけ出した答えの先には更なる問いが待っているということを理解します。その後、科学と人間の関わり合いに目をむけ、自然とのつき合い方を考えます。

◆ 各科目

<物理基礎・物理>

「物理」は、自然現象がどのような原理、法則で生じるのかを追求する科目です。「力学」や「熱力学」、「気体分子運動論」、「波の性質」、「電磁気学」、「原子物理」等を学び、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、習得した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力を身につけられるようにします。

<化学基礎・化学>

「化学」は、ものを物質という観点から考える科目です。「物質の状態」や「物質の変化と平衡」、「無機物質」、「有機化合物」、「高分子化合物」等を学び、基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解することを目指します。そして、物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身につけられるようにします。演習が多くなりますので、1学期の間に既習事項の復習を済ませましょう。受験勉強に向け、既習事項をつなげていくことが大切です。

<生物基礎・生物>

「生物」は、この地球に存在している生物の共通性と多様性を考える科目です。「生物の特徴」や「生命現象」、「生物の環境応答」、「生態系」等を学び、生物の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、生物としての自分自身を理解し、自然界を構成する一員として、身の回りの自然環境を生物の多様性と生態系を通して考えられるようにします。

<地学基礎>

「地学基礎」は、地球や宇宙を考える科目です。「地球」や「地球の歴史」、「大気と海洋」、「宇宙の構造」等を学び、地球を基本とする自然科学の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、習得した見方、考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行い、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質、能力を身につけられるようにします。

年間学習計画表 3年普通科

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
生物		5	生物 数研出版	リードα生物（数研出版） サイエンスビュー生物総合資料（実教出版）		
【到達目標】		① 生命現象を科学的な視点で理解できるようにする。 ② 実験データなどから考察できる能力を養う。 ③ 共通テストおよび個別入試に対応できる学力を養う。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第3章 代謝 第2節 呼吸と発酵 第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の複製 第3節 遺伝子の発現調節	<input type="checkbox"/> 呼吸の過程 <input type="checkbox"/> 発酵 <input type="checkbox"/> 脂肪とタンパク質の分解 <input type="checkbox"/> DNAの複製 <input type="checkbox"/> 転写とスプライシング <input type="checkbox"/> 真核細胞と原核細胞の翻訳の違い <input type="checkbox"/> 原核生物の発現調節 <input type="checkbox"/> 真核生物の発現調節 <input type="checkbox"/> 動物の配偶子形成と受精 <input type="checkbox"/> カエルの発生	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第4章 遺伝子の発現と発生 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術 第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮	<input type="checkbox"/> カエルの発生と遺伝子発現 <input type="checkbox"/> ショウジョウバエの発生と遺伝子発現 <input type="checkbox"/> 遺伝子を導入する技術 <input type="checkbox"/> 遺伝子を解析する技術 <input type="checkbox"/> 遺伝子発現を解析する技術 <input type="checkbox"/> 受容器と適刺激 <input type="checkbox"/> 視覚器 <input type="checkbox"/> その他の受容器 <input type="checkbox"/> ニューロンの構造 <input type="checkbox"/> ニューロンの興奮 <input type="checkbox"/> 興奮の伝導と伝達	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第5章 動物の反応と行動 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動 第6章 植物の環境応答 第1節 植物の生活と植物ホルモン 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 第5節 環境の変化に対する応答	<input type="checkbox"/> 反射 <input type="checkbox"/> 筋肉の構造と収縮 <input type="checkbox"/> 生得的行動 <input type="checkbox"/> 学習と記憶 <input type="checkbox"/> 種子の休眠と発芽 <input type="checkbox"/> 種子の発芽と光 <input type="checkbox"/> 植物の成長と光 <input type="checkbox"/> 植物の成長と重力 <input type="checkbox"/> 植物の器官と組織 <input type="checkbox"/> 花芽形成の調節 <input type="checkbox"/> 気孔の開閉 <input type="checkbox"/> 植物の防御反応	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第6章 植物の環境応答 第6節 配偶子形成と受精 第7章 生物群集と生態系 第1節 個体群の構造と性質 第2節 個体群内の個体間の関係 第3節 異なる種の個体群間の関係 第4節 生態系の物質生産と物質循環 第5節 生態系と人間生活	<input type="checkbox"/> 被子植物の配偶子形成と受精 <input type="checkbox"/> 胚や種子の形成と果実の成熟 <input type="checkbox"/> 個体群 <input type="checkbox"/> 個体群の成長と密度効果 <input type="checkbox"/> 個体群の年齢構成と生存曲線 <input type="checkbox"/> 群れ <input type="checkbox"/> 社会の構造と分業 <input type="checkbox"/> 生物群集 <input type="checkbox"/> 被食-捕食の関係 <input type="checkbox"/> 種間競争 <input type="checkbox"/> 生態的地位と共存 <input type="checkbox"/> さまざまな共生 <input type="checkbox"/> 物質生産 <input type="checkbox"/> 物質収支 <input type="checkbox"/> 物質循環とエネルギーの流れ <input type="checkbox"/> 生物多様性とその恩恵 <input type="checkbox"/> 人間活動の生態系への影響	○	○	○
1月		入試対策総合問題演習		○	○	○

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：選択者のみ

年間学習計画表 3年理数科

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
SS理数生物		5	生物 数研出版	リードα生物基礎+生物（数研出版） サイエンスビュー生物総合資料（実教出版）		
【到達目標】		① 生命現象を科学的な視点で理解できるようにする。 ② 実験データなどから考察できる能力を養う。 ③ 共通テストおよび個別入試に対応できる学力を養う。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	第4章 遺伝情報の発現と発生 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現	<input type="checkbox"/> 原核生物の発現調節 <input type="checkbox"/> 真核生物の発現調節 <input type="checkbox"/> 動物の配偶子形成と受精 <input type="checkbox"/> カエルの発生 <input type="checkbox"/> カエルの発生と遺伝子発現 <input type="checkbox"/> ショウジョウバエの発生と遺伝子発現	○	○	○
6月～7月	1学期 期末	第4章 遺伝子の発現と発生 第5節 遺伝子を扱う技術 第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動	<input type="checkbox"/> 遺伝子を導入する技術 <input type="checkbox"/> 遺伝子を解析する技術 <input type="checkbox"/> 遺伝子発現を解析する技術 <input type="checkbox"/> 受容器と適刺激 <input type="checkbox"/> 視覚器 <input type="checkbox"/> その他の受容器 <input type="checkbox"/> ニューロンの構造 <input type="checkbox"/> ニューロンの興奮 <input type="checkbox"/> 興奮の伝導と伝達 <input type="checkbox"/> 反射 <input type="checkbox"/> 筋肉の構造と収縮 <input type="checkbox"/> 生得的行動 <input type="checkbox"/> 学習と記憶	○	○	○
9月～10月	2学期 中間	第6章 植物の環境応答 第1節 植物の生活と植物ホルモン 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 第5節 環境の変化に対する応答 第6節 配偶子形成と受精	<input type="checkbox"/> 種子の休眠と発芽 <input type="checkbox"/> 種子の発芽と光 <input type="checkbox"/> 植物の成長と光 <input type="checkbox"/> 植物の成長と重力 <input type="checkbox"/> 植物の器官と組織 <input type="checkbox"/> 花芽形成の調節 <input type="checkbox"/> 気孔の開閉 <input type="checkbox"/> 植物の防御反応 <input type="checkbox"/> 被子植物の配偶子形成と受精 <input type="checkbox"/> 胚や種子の形成と果実の成熟	○	○	○
11月～12月	2学期 期末	第7章 生物群集と生態系 第1節 個体群の構造と性質 第2節 個体群内の個体間の関係 第3節 異なる種の個体群間の関係 第4節 生態系の物質生産と物質循環 第5節 生態系と人間生活	<input type="checkbox"/> 個体群 <input type="checkbox"/> 個体群の成長と密度効果 <input type="checkbox"/> 個体群の年齢構成と生存曲線 <input type="checkbox"/> 群れ <input type="checkbox"/> 社会の構造と分業 <input type="checkbox"/> 生物群集 <input type="checkbox"/> 被食-捕食の関係 <input type="checkbox"/> 種間競争 <input type="checkbox"/> 生態的地位と共存 <input type="checkbox"/> さまざまな共生 <input type="checkbox"/> 物質生産 <input type="checkbox"/> 物質収支 <input type="checkbox"/> 物質循環とエネルギーの流れ <input type="checkbox"/> 生物多様性とその恩恵 <input type="checkbox"/> 人間活動の生態系への影響	○	○	○
1月		入試対策総合問題演習		○	○	○

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：選択者のみ

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
化学探究		3	化学基礎（数研出版）	2023 セミナー化学基礎+化学（第一学習社） 2025 チェック&演習 化学基礎（数研出版）		
【到達目標】		① 元素と単体について理解する ② 化学反応について理解を深める ③ 演習を通して入試問題に慣れる				
【学習上の留意点】		① 化学基礎の内容に関する復習を各自で進めること ② 共通テストの出題形式に慣れるために基礎を固めること ③ 基本的な事項について繰り返し演習を行うこと				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	化学基礎の復習	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成 物質の構成粒子 粒子の結合 	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	化学基礎の復習	<ul style="list-style-type: none"> 物質と化学反応式 酸と塩基の反応 酸化還元反応 	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	入試対策 問題演習		○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	入試対策 問題演習		○	○	○
1月		入試対策 問題演習		○	○	○

※ 課題テスト： なし

※ 実力テスト： なし

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
化学		5	化学（数研出版）	2023 セミナー 化学基礎＋化学（第一学習社）		
【到達目標】		① 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ② 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ③ 化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。				
【学習上の留意点】		① 授業に真剣に取り組む。 ② 予習は行わないが，復習は現象理解と問題演習を中心に行う ③ 大学入試問題に対して積極的に取り組み，出題者の意図を考える				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素（Ⅰ） 第3章 金属元素（Ⅱ）	<input type="checkbox"/> 非金属元素 <input type="checkbox"/> 典型元素 <input type="checkbox"/> 遷移元素	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物	<input type="checkbox"/> 有機化合物の分類と分析 <input type="checkbox"/> 脂肪族炭化水素 <input type="checkbox"/> アルコールと関連化合物	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第4編 有機化合物 第4章 芳香族化合物 第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質	<input type="checkbox"/> 芳香族化合物 <input type="checkbox"/> 高分子化合物とは	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第5編 高分子化合物 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 入試問題演習	<input type="checkbox"/> 天然高分子化合物 <input type="checkbox"/> 合成高分子化合物	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試問題演習		○	○	○

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：なし

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
SS理数化学		4	化学（数研出版）	2023セミナー化学+化学基礎（第一学習社） 2025チェック&演習 化学（数研出版） 化学図録（数研出版）		
【到達目標】		① 各有機化合物の命名法を理解し、その検出方法を理解する ② 有機化合物の性質を理解し、反応物から生成物が予測できるようになる ③ 化学基礎の内容を含め既習内容をもとに問題を解くことができるようになる				
【学習上の留意点】		① 授業のたびに副教材等を用いて問題演習を行うこと ② 受験に当たっては、化学基礎の内容から再度確認すること ③ 各種補習を有効活用し、苦手克服に努めること				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分離と精製 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物	<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の特徴 成分元素の検出、元素分析 アルカン, アルケン, アルキン アルコールとエーテル アルコールの性質と反応 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
6月～7月	1学期 期末	第4章 芳香族化合物 第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物	<ul style="list-style-type: none"> 芳香族炭化水素 フェノールの合成、反応 高分子化合物の分類 高分子化合物が生成する反応 単糖類、二糖類 タンパク質の構造・分類 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
9月～10月	2学期 中間	第3章 合成高分子化合物 入試対策問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 縮合重合, 開環重合, 付加重合 熱可塑性樹脂 熱硬化性樹脂 イオン交換樹脂 天然ゴムと合成ゴム 	○ ○	○ ○	○ ○
11月～12月	2学期 期末	入試対策問題演習		○	○	○
1月～3月	3学期 学年末	入試対策問題演習		○	○	○

※ 課題テスト：実施しない

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
物理	5	高等学校 物理 (啓林館)	セミナー 物理基礎+物理 (第一学習社) チェック&演習 物理 (数研出版)			
【到達目標】	① 身近な物理現象と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ② 科学的に探究する力を育み、物理学と日常生活や社会との関わりを考えることができるようになる。					
【学習の仕方】	① 教科書の「文章」だけではなく、「イラスト」や「グラフ」、「公式」の意味を考えながら、予習・復習しましょう。 ② 積極的に問題演習をしましょう。					
【学習上の留意点】	① 問題を解くことができ、初めて内容を理解したことになります。問題が解けないうちはとても辛いと思いますが、できるまで何度も繰り返して乗り越えましょう。 ② 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまいます。わからないことは後回しにせずに、早めに理解しましょう。 ③ 普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。					
月	テスト	進度 (単元)		主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第3部 波	第3章 光 ① 光の性質 ② レンズと球面鏡 ③ 光の回折と干渉	○ ○	○ ○	○ ○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第4部 電気と 磁気	第1章 電界と電位 ① 静電気 ② 電界 ③ 電位 ④ コンデンサー 第2章 電流 ① 電流 ② 直流回路 ③ 半導体	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○
9月 ～ 10月	2学期 中間		第3章 電流と磁界 ① 磁気力と磁界 ② 電流がつくる磁界 ③ 電流が磁界から受ける力 ④ ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 ① 電磁誘導の法則 ② 磁界中を運動する導体棒 ③ 自己誘導と相互誘導 ④ 交流 ⑤ 電気振動と電磁波	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第5部 原子・分 子の世界	第1章 電子と光 ① 電子の電荷と質量 ② 光の粒子性 ③ X線 ④ 粒子の波動性 第2章 原子・原子核・素粒子 ① 原子モデル ② 原子核と放射線 ③ 核反応と核エネルギー ④ 素粒子と宇宙	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試対策問題演習		○	○	○

科目名等	単位数	教科書名	副教材等		
SS理数物理	5	高等学校 物理（啓林館）	セミナー 物理基礎・物理（第一学習社） チェック&演習 物理（数研出版）		
【到達目標】	③ 身近な物理現象と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ④ 科学的に探究する力を育み、物理学と日常生活や社会との関わりを考えることができるようになる。				
【学習上の留意点】	④ 問題を解くことができ、初めて内容を理解したことになる。できるまで何度も繰り返し問題を解くことが大事。 ⑤ 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習していく。分からないことをそのままにしておくと、次々に分からなくなってしまう、結局勉強が嫌になってしまう。分からないことは後回しにせず、質問したり、友人と協議したりして理解に努めること。				
月	テスト	進度（単元）	主に用いる評価の観点		
			知識 技能	思考 判断 表現	主体的に学 習に取り組 む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第3部_第3章_光 第3節_光の回折と干渉 D 薄膜による光の干渉 E 空気層による光の干渉 第4部_第1章_電界と電位 第1節_静電気 第2節_電界 第3節_電位 第4節_コンデンサー	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第4部_第2章_電流 第1節_電流 第2節_直流回路 第3節_半導体 第4部_第3章_電流と磁界 第1節_磁気力と磁界 第2節_電流がつくる磁界 第3節_電流が磁界から受ける力 第4節_ローレンツ力	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第4部_第4章_電磁誘導と電磁波 第1節_電磁誘導の法則 第2節_磁界中を運動する導体棒 第3節_自己誘導と相互誘導 第4節_交流 第5節_電気振動と電磁波 第5部_第1章_電子と光 第1節_電子の電荷と質量 第2節_光の粒子性 第3節_X線 第4節_粒子の波動性	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第5部_第2章_原子・原子核・素粒子 第1節_原子モデル 第2節_原子核と放射線 第3節_核反応と核エネルギー 第4節_素粒子と宇宙 大学入学共通テスト対策実戦演習 個別試験対策問題演習	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	大学入学共通テスト対策実戦演習 個別試験対策問題演習 （家庭研修）	○	○	○

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
地学探究	3	高等学校 地学基礎 第一学習社	セミナー地学基礎 チェック&演習 地学基礎			
【到達目標】	④ 地学の基礎知識を確認し、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ⑤ 共通テストに対応できる学力を養う。					
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・ 技能	思考・判 断・表現	主体的に学 習に取り組 む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	地学基礎の復習（前半）	<input type="checkbox"/> 地球のすがた <input type="checkbox"/> 地球の活動 <input type="checkbox"/> 大気と海洋	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	地学基礎の復習（後半）	<input type="checkbox"/> 宇宙と地球 <input type="checkbox"/> 生物の変遷と地球環境 <input type="checkbox"/> 地球の環境	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	入試対策 問題演習		○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	入試対策 問題演習		○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	入試対策 問題演習		○	○	○

観点別評価ルーブリック

教科 理科
科目 生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。 	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	①②③ 提出、内容が良好	①②③ 提出できている	①②③ 未提出

観点別評価ルーブリック

教科 理科
科目 SS生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	・生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	・生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習する態度を取り組	・生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	① 得点率が良好 ②③ 提出・内容が良好	① 得点率が良 ②③ 提出できている	① 得点率が不十分 ②③ 未提出

観点別評価ルーブリック

理科
化学探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成・構成粒子・粒子の結合、物質量と化学反応式、酸と塩基の反応、酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。 日常生活や社会との関連を図りながら、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 	小テスト 定期検査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成、物質の変化とその利用について、それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。 物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報の収集、仮説の決定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。 	小テスト レポート 定期検査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が標準より劣る。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について対して主体的に関わり、化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付けていることを認識しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	再テスト テスト直し レポート 定期検査 行動観察等	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目
理科
化学

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成・構成粒子、粒子の結合、物質量と化学反応式、酸と塩基の反応、酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けで理解している。 日常生活や社会との関連を図りながら、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 	小テスト 定期考査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成、物質の変化とその利用について、それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。 物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。 	小テスト レポート 定期考査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。 レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。 しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。	該当問題の得点率が標準より劣る。 自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について主体的に関わり、化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	再テスト テスト直し レポート 定期考査 行動観察等	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

理科
SS理数化学

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<p>・物質の構成・構成粒子、粒子の結合、物質量と化学反応式、酸と塩基の反応、酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けで理解している。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</p>	小テスト 定期考査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<p>・物質の構成、物質の変化とその利用について、それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。</p> <p>・物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。</p>	小テスト レポート 定期考査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が標準より劣る。
主体的に取り組む態度	<p>・物質とその変化について主体的に関わり、化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。</p> <p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p>	再テスト テスト直し レポート 定期考査 行動観察等	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

理科
物理（3年生／普通科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物理的な事象・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物理的な事象・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
主体的に取り組む態度	物理的な事象・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

観点別評価ルーブリック

理数
SSS理数物理（3年生/理数科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物理的な事象・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物理的な事象・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
主体的に学習に取り組む態度	物理的な事象・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

観点別評価ルーブリック

教科
理科
地理探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	地球や地球を取り巻く環境についての観察、実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	① 得点率が良好 ②③ 提出・内容が良好	① 得点率が良 ②③ 提出できている	① 得点率が不十分 ②③ 未提出

6 保健体育科

体育

(1) 体育の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 健康な人生を送るための体力向上
2. 自ら進んで継続して身体活動を実践するための知識と技能の習得
3. 礼節を重んじ、仲間と協同し責任を持って行動できる精神の育成

(2) 3学年の学習について

1. 指導目標

- ・ 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して、生涯にわたってスポーツに取り組む知識と技能を身につける。
- ・ 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度を育てる。
- ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できるようにする。
- ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう各種目のルールや試合運営も学ぶ。

2. 評価について

授業態度（積極的な活動、体力の向上・技能の習得）、出欠状況、スキルテストの内容、個人・グループノートの内容、ルールやマナーの理解度を基に以下の3つの観点から総合的に評価する。

【知識・技能】

- ・ 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。
- ・ 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。
- ・ 運動の技能の構造と運動の学び方を理解している。
- ・ 各競技のルール、練習方法、戦術について理解をしている。

【思考・判断・表現】

- ・ 自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考し判断している。
- ・ 課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。
- ・ 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片づけ、施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。
- ・ 健康や安全に留意して、自ら運動をしようとしている。

3. 授業について

1) 単位数 普通科2単位・理数科2単位

2) 授業の進め方（体育実技）

授業の進め方は概ね以下の通りである。

ランニング→集合→あいさつ・点呼→体操・補強→本時の説明→「活動」→整理体操→あいさつ

3) その他

- ・ 4月～10月は半袖 or 長袖Tシャツ、男子短パン、女子ハーフパンツ。
- ・ 禁止事項：タイツ、ストッキング、アクセサリ類の着用。
- ・ 運動制限や健康上の不安等がある場合、必ず担当教諭に相談すること。

(3) 学習内容

領域	領域の内容・単元	第1学年		第2学年		第3学年	備考	
		男	女	男	女	男女共修		
体育理論		○	○	○	○	●		
体づくり	体力を高める運動(持久走)	○	○	○	○	●		
	体をほぐす運動	○	○	○	○	●		
陸上競技	長距離走	○	○	○	○	●		
	三種競技(走・跳・投)	○	○			■※1		
水泳	各種泳法	○	○	○	○		※2	
	遠泳・競泳(複数の泳法)	○	○	○	○	■※1	※3	
武道	柔道	○		○		■※1		
器械運動	マット運動		○	○			※4	
	跳び箱運動		○	○		■※1		
	鉄棒運動		○	○				
球技	ゴール型	バスケットボール		○	○		■※1	
		ハンドボール	○			○	■※1	
		サッカー	○	○			■※1	
	ネット型	バレーボール			○	○	■※1	
		テニス					■※1	
		バドミントン					■※1	
		卓球					■※1	
	ベースボール型	ソフトボール					■※1	

※1 選択授業

※2 1年次にクロール・平泳ぎ、2年次に背泳ぎ・バタフライを行う

※3 1年次は2種類の泳法・2年次は4種類の泳法で行う

※4 3種目の運動の中から1種目または2・3種目を行う

(4) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
体育		2	新高等保健体育			
【到達目標】		① 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して、生涯にわたってスポーツに取り組む知識と技能が身につく。 ② 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度が身につく。 ③ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できる。 ④ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう各種目のルールを理解し試合が運営できる。				
【学習上の留意点】		① 体育は実技教科なので、出席を特に重視している。 ② やむを得ず見学をする場合には、見学の理由等を記入し、授業の1時間前に教科担当に報告をし、指示を受けること。 ③ 授業には定刻前に余裕を持って集合する。集合場所については体育委員が事前に教科担当に確認し、クラスの生徒に連絡をする。				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期中間	・体育理論 (生涯スポーツの見方・考え方、ライフスタイルとスポーツの楽しみ方) ・陸上競技(持久走) 男子1500m、女子1000m 前期選択種目 陸上競技・水泳・器械運動・武道・球技の中から1種目選択		○	○	○
6月～7月	1学期期末	陸上競技・水泳・器械運動・武道・球技の中から1種目選択		○	○	○
9月～10月	2学期中間	・体育理論 (スポーツ推進のための施策と課題、スポーツで「未来」を創る) 後期選択種目 陸上競技・器械運動・武道・球技の中から1種目選択		○	○	○
11月～12月	2学期期末	・陸上競技(長距離走) 男子約5km 女子約4km 後期選択種目の続き		○	○	○
1月～3月	3学期学年末	・体づくり運動(体力を高める運動、体ほぐしの運動) 家庭研修		○	○	○

スポーツⅡ（選択授業）

（１）スポーツⅡとは

「スポーツⅡ」は、それぞれのスポーツの型に応じた攻防で個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競い合うといった特性がある。種目についての成り立ちや変遷などの歴史や現在のルール、技術の構造及び技能の高め方、技術分析、初心者への指導法、審判法、競技会の開催の仕方やその際の役割分担などについて科学的、社会的、文化的な側面から教養を身に付ける。

また、球技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できるようにすることを目指す。

更に、自己やチームに適した目標や課題を適切に設定して練習に取り組み、その課題を解決できるようにし、卒業後においても、「する、みる、支える、知る」といった視点で自己に適したスポーツとのかかわりを継続できるようにする。そのため、専門的な知識及び目的に応じた技能を獲得し、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力及び主体的に学習に取り組む態度をバランスよく育成する

（２）スポーツⅡの指導目標

球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。

（３）学習内容

① ゴール型球技

ゴール型球技では、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、を取り上げる。チームや個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。その際、手でボールを扱うバスケットボール、ハンドボール、主として足でボールを扱うサッカー、の各種目の特性を踏まえ、ボール操作とボールを持たないときの動きを中心に扱う。

② ネット型球技

ネット型球技では、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンを取り上げる。チームやダブルス、個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。その際、手でボールを扱い、チームで複数回の接触によって攻撃を組み立てるバレーボール、ラケットでボールを扱い、一回の返球によって攻撃を組み立て打ち合うテニス、卓球、バドミントンの各種目の特性を踏まえ、ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きを中心に扱う。

③ ベースボール型球技

ベースボール型球技では、ソフトボールを取り上げ、個人やチームの技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。その際、ボールがやや大きく塁間が短いソフトボールの特性を踏まえ、バット操作やボール操作とボールを持たないときの動きを中心に扱う。

④ 類型共通

身に付けた技能に応じて攻防が展開できるように系統的、計画的に練習ができるようにする。また、技能と体力の関連を踏まえ、各種目に高度な技能の習得に効果的な科学的練習法や体力トレーニングも含めて扱う。

（４）評価

1. 知識・技能については、次の点に配慮して評価する（類型共通の知識）

技術、戦術、作戦及びその高め方、合理的な練習法や練習計画の立て方、体力の高め方、課題解決の方法、審判法や競技会の企画・運営の仕方、初歩的な指導法、運動観察や動作分析の仕方などを理解することができる知識。

①ゴール型球技

- ボール操作の動き：ドリブルやパス、ボールを保持したランニングなどによってボールを保持したり相手をかわしたりして攻防を展開する技能。
- ボールを持たないときの動き：パスを受けるために空間に走り込んだり仲間をサポートしたりする動きによって、組織的に攻防を展開する技能。

②ネット型球技

- ボールや用具の操作：サーブ、レシーブ、スマッシュ、カットなどの技能を用いて、返球場所をコントロールしたり、緩急や前後の空間への返球、ボールの回転の変化などによって、体勢を整えたり、相手の隙をついたりして攻防を展開する技能。
- ボールを持たないときの動きで：空間を埋めたり仲間をサポートしたりする動きによって、仲間と連携して攻防を展開する技能。

③ベースボール型球技

- バット操作やボール操作：バッティング、バントなどの技術を用いて、打ち返す方向をコントロールしてヒットをねらったり、仲間の進塁をサポートしたりして得点につなげる攻撃と、フライやゴロに対する捕球動作と送球動作などの守備の技能。
- ボールを持たないときの動き：離塁やタッチアップなどの技術を用いて次の塁をねらう動きによって進塁する攻撃と、打球に応じた守備位置の移動や仲間と連携して中継プレイやバックアップをする守備の技能。

2. 思考・判断・表現では、次の点に配慮して評価する

- 課題解決の向け、主体的に思考し判断し実践することや、動きの妥当性や改善策を他者に言葉や動作などで表現したり、理論的に伝えることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度については、次の点に配慮して評価する

- 球技の学習に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、競技のルールや審判の判定を遵守しようとする。
- 試合後にお互いを讃え合うなどのマナーやフェアプレイの考え方を大切にしようとする。
- 互いの技術の上達に向けて助け合い高め合おうとする。
- 審判や記録などの役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする。

4. チームの作戦や戦術の話合いについては、次の点に配慮して評価する

- 自分の意見や仲間の意見を調整して合意形成に貢献しようとすることができる。
- 体調や気候の変化に応じて運動量を調整したり危険を予見して回避行動をとったりするなどによって、健康・安全を確保し事故防止を図ることができる。

5. 事故防止については、次の点に配慮して評価する

- ゴール型球技では、攻防入り交じってボールを手や足で奪い合う特性から接触による事故。
- ネット型球技では、コート内の味方同士の接触や用具操作にかかわる事故。
- ベースボール型及びターゲット型球技では、バットやボールによる事故。
- 起きやすいことなどを踏まえて事故事例や防止策、技能に応じた練習の選択、天候の変化や炎天下などの自然環境の中での安全の確保、応急手当の仕方などの態度形成のもととなる知識について理解させ、危険を回避する態度を高めるようにする。

(5) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
スポーツⅡ		2	新高等保健体育			
【到達目標】		球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。				
【学習上の留意点】		① スポーツⅡは実技教科なので、出席を特に重視している。 ② 技術の向上だけでなく、審判や記録などの役割を積極的に行い、自主的に練習行ったり、ゲームを運営したりすることが求められる。				
月	テスト	進度（単元）	自己 チェ ック 項目	主に用いる評価の観点		
				知識・ 技能	思考・判 断・表現	主体的に学 習に取り組 む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	・前期選択種目・後期選択種目の決定 ※ゴール型、ネット型、ベースボール型の中から前後期それぞれ2種目ずつ選択する。 ・前期選択種目の実施		○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末			○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	・後期選択種目の実施		○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末			○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	家庭研修		○	○	○

観点別評価ルーブリック

保健体育
科目
体育

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題の解決や、戦術の理解を旨として運動を行うことができる。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。 運動技能の構造と運動の学び方理解している。 各競技のルール、練習方法、戦術について、言ったり書きだしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 体力の向上 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目を8割以上達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目を4割以上8割未満達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目が4割未満で達成できている。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断している。 課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に積極的に取り組んでいる。 自己の思考や判断について表現力が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に取り組んでいる。 自己の思考や判断についての表現力が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことが乏しい。 課題解決に取り組むことが乏しい。 自己の思考や判断についての表現力が乏しい。
学習主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片付け、施設・設備の整備を積極的に行ったたりしている。 健康・安全に留意して、自ら運動をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り・改善への意欲・授業への参加状況、学習カードの提出が良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り・改善への意欲・授業への参加状況、学習カードの提出が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が乏しい。 授業への参加状況、学習カードの提出が乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目
保健体育
スポーツII

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 競技の特性を理解し、その運動の正しい方や学び方、ルールや戦術、健康や安全の確保等、スポーツを継続的に実践する多様な関わり方を理解している。 習得した技能に応じて攻防を展開したり、仲間と連携し組織的な攻防を展開することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の正しい方の理解 技能の習得 体力の向上 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫・改善(単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 各競技の技能、戦術、作戦及びその高め方、課題解決に向けた合理的な練習法や練習計画の立て方、審判法や競技会の企画、運営の仕方、指導法の理解 各競技における運動技能の習得 <p>以上の項目を8割以上達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技の技術、戦術、作戦及びその方、課題解決に向けた合理的な練習法や練習計画の立て方、審判法や競技会の企画、運営の仕方、指導法の理解 各競技における運動技能の習得 <p>以上の項目を4割以上8割未満達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技の技術、戦術、作戦及びその方、課題解決に向けた合理的な練習法や練習計画の立て方、審判法や競技会の企画、運営の仕方、指導法の理解 各競技における運動技能の習得 <p>以上の項目を4割未満達成できている。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、主体的に思考し判断し実践することができるとともに、事故の未然防止に努めるなど、健康や安全に留意している。 自分やグループの意見を調整し、合意形成に努めている。さらに、互いの技術を向上させるために助け合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の正しい方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫・改善(単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的なデータをもとに、動きの妥当性や改善策を他者に伝えることなどや、運営方法を提案することなどが優れている。 自己の思考や判断について表現力が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的なデータをもとに、動きの妥当性や改善策を他者に伝えることなどが標準である。 自己の思考や判断について表現力が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的なデータをもとに、動きの妥当性や改善策を他者に伝えることなどが乏しい。 自己の思考や判断について表現力が乏しい。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自他の体力や技能に配慮し、主体的に運動に取り組むとともに、事故の未然防止に努めるなど、健康や安全に留意している。 自分やグループの意見を調整し、合意形成に努めている。さらに、互いの技術を向上させるために助け合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の正しい方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫・改善(単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲を持ち、個々の挑戦課題を尊重し、互いに助け合いながら活動する行動が優れている。 多様な参加者と共に効果的な体力高め方や事故防止など、健康や安全に十分留意している。 授業への参加状況、学習カードの提出が良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲を持ち、個々の挑戦課題を尊重し、互いに助け合いながら活動する行動が標準である。 多様な参加者と共に効果的な体力高め方や事故防止など、健康や安全に留意している。 授業への参加状況、学習カードの提出が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲を持ち、個々の挑戦課題を尊重し、互いに助け合いながら活動する行動が乏しい。 多様な参加者と共に効果的な体力高め方や事故防止など、健康や安全に留意する態度に改善が望まれる。 授業への参加状況、学習カードの提出が乏しい。

7 芸術科

音楽

1 演奏研究

資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することがねらいです。

2 目標

音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目指す。

3 評価の観点

- 音楽への関心・意欲・態度
- 音楽表現の創意工夫
- 音楽表現の技能
- 鑑賞の能力

4 3学年の学習内容

【表現】

歌唱・器楽

- ・表現に関わる知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに表現を創意工夫する
- ・楽曲の内容や様々な表現形態による表現の固有性や多様性を理解する
- ・様々な音素材や様式、表現形態などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する
- ・創意工夫や表現上の効果を生かした表現をするために必要な技術を身に付ける

【鑑賞】

- ・鑑賞に関わる知識を総合的に働かせながら、曲や演奏に対する評価とその根拠、文化や芸術としての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴く
- ・音楽の美しさと音楽の構造との関わり、芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化との関わり、現代の我が国及び諸外国の音楽の特徴、音楽と人間の感情との関わり及び社会における音楽に関わる人々の役割について理解する

5 その他

- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考える
- ・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解する
- ・授業内で演奏発表を行い、お互いの演奏を聴きあう

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
演奏研究		2				
【到達目標】		① 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせられるようにする ② 生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する				
【学習上の留意点】		① 授業への取り組みや提出物も重視しています ② 期考査は実施しませんが、授業内に実技テストや発表があります				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間 未実施	《表現》 音楽de自己紹介	<input type="checkbox"/> 自分の好きな音楽をプレゼンテーションすることで、音楽の見方・考え方を再認識できたか <input type="checkbox"/> 仲間のプレゼンテーションから、音楽の見方・考え方の視点を広げることができたか		○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末 未実施	《器楽》 演奏発表に向け練習	<input type="checkbox"/> 目標に向かって練習に取り組めたか <input type="checkbox"/> 責任をもって役割を担えたか <input type="checkbox"/> 読譜力を高められたか	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間 未実施	《鑑賞》 西洋音楽史 作曲家調べ	<input type="checkbox"/> 時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす音楽文化に広く関心をもち、それぞれの良さを感じ取れたか。 <input type="checkbox"/> 作曲家や作品の特徴を見れたか	○		○
11月 ～ 12月	2学期 期末 未実施	《鑑賞》 西洋音楽史 作曲家調べ・発表	<input type="checkbox"/> 時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす音楽文化に広く関心をもち、それぞれの良さを感じ取れたか。 <input type="checkbox"/> 作曲家について調べプレゼンテーションをし、様々な作曲家や音楽に触れられたか	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末 未実施	《器楽》 合奏 《歌唱》 合唱	<input type="checkbox"/> 楽譜を読み、演奏に結びつけられたか <input type="checkbox"/> 協力して行えたか <input type="checkbox"/> 自分の音に責任をもって取り組めたか	○	○	○

美術

1 クラフトデザイン

クラフトデザインは、創造的な諸活動を通して、創造の喜びを一層深く味わい、美術を生活に生かすなど、生涯にわたって美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、独創的で個性的な表現と鑑賞の能力を高めることをねらいとしています。生活全般にわたり、形や色彩などを活用し生活の中で生きるデザインを重視します。さらに、自然や環境などを配慮しながら心豊かで夢のある生活を実現するためのデザインの働きを理解し、独創的なデザインの制作や実生活の場面での活用・改善の喜びを味わえるよう表現に取り組みます。

2 目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

3 評価の観点

- 美術への関心・意欲・態度
- 発想や構想の能力
- 創造的な技能
- 鑑賞の能力

4 3年次の学習内容

(1) 【デザイン】

- ア デザイン効果を考えて独創的な主題を生成し、表現の構想を練る。
- イ 主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的なデザインを追求する。

5 その他

- ・題材は、立体構成（紙）、籐デザイン工芸を行います。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
クラフトデザイン		2				
【到達目標】		<p>①デザインの社会的役割や文化的意義を理解するなどして、デザインに対する見方や考え方を深めていく。</p> <p>②自然や環境などを配慮しながら心豊かで夢のある生活を実現するためのデザインの働きを理解し、独創的なデザインの制作や実生活の場面での活用・改善の喜びを味わえるよう表現に取り組む。</p>				
【学習上の留意点】		<p>①授業時間ごとの取り組みや提出物を重視しますので、毎時間完結するつもりで受講してください。</p> <p>②中間及び期末テストは実施しません。</p>				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	≪作品制作≫ クラフトデザイン 「籠をつくる」 ≪鑑賞学習≫ 日本の文化に関するテーマ	<input type="checkbox"/> 伝統的なデザインのよさを感じ取り、つくる力を高めることができたか。 <input type="checkbox"/> 制作手順や様々な編み方を理解できたか <input type="checkbox"/> 鑑賞を通して、時代や民族、国の違いを越えて感動をもたらす美術文化に広く関心をもち、伝統的なデザインのよさを感じ取れたか。	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	≪作品制作≫ クラフトデザイン 「籠をつくる」 ≪鑑賞学習≫ 日本の文化に関するテーマ	<input type="checkbox"/> 友達の作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して鑑賞の課題に取り組めたか。	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	≪作品制作≫ クラフトデザイン 「テーマをもとに紙による立体構成を行う」	<input type="checkbox"/> デザインの目的や条件、機能や構造、材料、技法等表現に関する諸条件について総合的に考察できたか。 <input type="checkbox"/> 道具を適切に使い、道具の扱いについて理解できたか。	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	≪作品制作≫ クラフトデザイン 「テーマをもとに紙による立体構成を行う」	<input type="checkbox"/> 生活や社会の中に心情や場をつくり出すという視点からデザインをとらえ、表現意図が効果的に伝わるように取り組めたか。 <input type="checkbox"/> 制作を振り返り、ポートフォリオを作成できたか。	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末					

書道

1 実用の書

人と文字は切っても切れない関係です。実用の書では、日常生活の中で何気なく使用している鉛筆・ボールペンを使い上手ではなく読みやすい文字を書くコツを学びます。また、また表札作りや普段でも使える印作りを楽しみませんか。

2 目標

楽しく文字に触れ学んでみる。

3 評価の観点

- ・文字への関心、意欲、学ぶ態度。
- ・考える力と創造力。
- ・表現する力。
- ・ノートの作成。

4 3年生の学習内容

- ア、硬筆（ボールペン、鉛筆等）の学習。
- イ、履歴書等を書いてみる。
- ウ、篆刻（1 cm角の石）・実際に使えます。
- エ、表札作り（10 cm×20 cm）
- オ、写経、のし袋を書く時の筆ペンの使い方。

5 その他

- ・課題により毎回提出があります。（欠席、公欠の場合後日提出）
- ・ノート（必ずA4）を使い、授業内容をノートに取る。（学期に一度チェック有）
- ・教科書はありません。
- ・教材は用意します。
- ・教材費を徴収します

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
実用の書		2	なし	硬筆ノート		
【到達目標】		① 丁寧で読みやすい硬筆文字の書き方を理解する。 ② 自分の名前の表札、印（1cm角）を制作してみる。 細字（写経）を使い細字に挑戦。日常の中の書を学ぶ。				
【学習上の留意点】		① ポイントごとに作品提出があります。 ② 書道ノート（A4）を作り、授業の内容をまとめる。（チェック有） 中間、期末テストは実施しません。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	<ul style="list-style-type: none"> 硬筆の学習 鉛筆、ボールペン等 履歴書の書き方 	<ul style="list-style-type: none"> 普段文字を丁寧に書くことに応用できているか。 履歴書の文字が読みやすく丁寧に楷書で書けているか。 	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	<ul style="list-style-type: none"> 篆刻 1cm角の印作り 	<ul style="list-style-type: none"> 草稿をしっかりと作ることができたか。 1cm角の小さな石の中に、朱文（文字が赤く出る）で名前を入れられたか。 名前の線がきちんと残っているか。 丁寧に押印できているか。 	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	<ul style="list-style-type: none"> 表札作り 10cm×20cm 	<ul style="list-style-type: none"> 草稿をしっかりと作ることができたか。 彫刻刀がきちんと使えているか。 下地の色付けがきちんと仕上がっているか。 	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	<ul style="list-style-type: none"> 表札作り 細字の学習 	<ul style="list-style-type: none"> 彫った文字に金色で色付けができているか。 完成が美しいか。 筆ペンをつかっての様々な文字の書き方が学ぶ。 写経やのし袋に書き入れる文字を学び趣味を広げる。 	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	<ul style="list-style-type: none"> 細字の学習 	<ul style="list-style-type: none"> 読みやすい手書き文字でオンリーワンになれるかも。 	○	○	○

観点別評価ルーブリック

教科 音楽
科目 音楽研究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。	表現鑑賞発表提出物	時代や様式及び演奏形態等に即した表現方法や解釈があることを理解し、必要な技能を身に付けている 7割以上達成できている	時代や様式及び演奏形態等に即した表現方法や解釈があることを理解し、必要な技能を身に付けている 4割以上7割未満達成できている	時代や様式及び演奏形態等に即した表現方法や解釈があることを理解し、必要な技能を身に付けている 4割未満達成できている
思考・判断・表現	音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。	表現鑑賞発表提出物	時代や地域による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえた演奏となっているか、思考判断し表現に生かす 7割以上達成できている	時代や地域による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえた演奏となっているか、思考判断し表現に生かす 4割以上7割未満達成できている	時代や地域による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえた演奏となっているか、思考判断し表現に生かす 4割未満達成できている
主体的に学習に取り組む態度	音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	表現鑑賞発表提出物	表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏を追求している 7割以上達成できている	表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏を追求している 4割以上7割未満達成できている	表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏を追求している 4割未満達成できている

観点別評価ルーブリック

教科
美術
クラフトデザイン

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸制作 ・ デザイン制作 	① デザインの目的や条件、機能や構造、材料、技法等表現に関する諸条件について総合的に考察できている。 ② 制作手順や様々な編み方を理解できている。 ③ 友達の商品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができる。 ④ 以上の項目が7割以上の達成できている。	① デザインの目的や条件、機能や構造、材料、技法等表現に関する諸条件について総合的に考察できている。 ② 制作手順や様々な編み方を理解できている。 ③ 友達の商品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができる。 ④ 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	① デザインの目的や条件、機能や構造、材料、技法等表現に関する諸条件について総合的に考察できている。 ② 制作手順や様々な編み方を理解できている。 ③ 友達の商品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができる。 ④ 以上の項目が4割未満で達成できている。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の動きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸制作 ・ デザイン制作 ・ 鑑賞 	① 伝統的なデザインのよさを感じ取り、つくる力を高めることができる。 ② 生活や社会の中に心情や場をつくりだすという視点からデザインをとらえ、表現意図が効果的に伝わるように取り組んでいる。 ③ 以上の項目が7割以上の達成できている。	① 伝統的なデザインのよさを感じ取り、つくる力を高めることができる。 ② 生活や社会の中に心情や場をつくりだすという視点からデザインをとらえ、表現意図が効果的に伝わるように取り組んでいる。 ③ 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	① 伝統的なデザインのよさを感じ取り、つくる力を高めることができる。 ② 生活や社会の中に心情や場をつくりだすという視点からデザインをとらえ、表現意図が効果的に伝わるように取り組んでいる。 ③ 以上の項目が4割未満で達成できている。
学習主体的に取り組む態度	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸制作 ・ デザイン制作 ・ 鑑賞 	① 鑑賞を通して、時代や民族、国の違いを越えて感動をもち、伝統的なデザインのよさを感じ取れたか。 ② 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ③ 以上の項目が7割以上の達成できている。	① 鑑賞を通して、時代や民族、国の違いを越えて感動をもち、伝統的なデザインのよさを感じ取れたか。 ② 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ③ 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	① 鑑賞を通して、時代や民族、国の違いを越えて感動をもち、伝統的なデザインのよさを感じ取れたか。 ② 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ③ 以上の項目が4割未満で達成できている。

観点別評価ルーブリック

教科
科目
書道
実用の書（3年生）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書の学習 ・篆刻制作 ・表札の制作 ・細字の学習 （写経） 	<p>A：「十分満足できる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中で、文字を丁寧に書くことができ受け入れられているのだろうか考えてみる。 ・ 文字の多様性に挑戦してみる。（篆刻、表札） ・ 細字（写経）を通じて興味を広げてみる。 ・ 該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。 	<p>B：「おおむね満足できる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。 	<p>C：「努力を要する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。
思考・判断・表現	書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篆書の学習 ・ 篆刻制作 ・ 表札の制作 ・ 細字の学習 （写経） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字の多様性について学習してみる。 ・ 生活の中における文字の及ぼす影響について考えてみる。 ・ 町中の看板、ポスターの効果。 ・ 写経を通して興味を広げてみる。 ・ 該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造してゆく態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篆書の学習 ・ 篆刻制作 ・ 表札の制作 ・ 細字の学習 （写経） 	<p>課題ごとに自己評価シートを作成。書道シートの作成（学期末に感想文も記載し提出）。課題作品の毎回提出（含公文、欠席時）。積極的な授業への参加（添削、挨拶、発言、居眠り、書道用具の忘れ物）。左利きの生徒への配慮。出欠席の割合（実技教科）。グループ内での積極的参加、協力、発言。・ 該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。

大宮北高校 第3学年の英語授業

現在、英語は国際語としての地位を非常に勢いで確立しつつあり、それに伴って英語教育の在り方や入試制度も時代とともに変化している過渡期にあります。そんな背景を鑑みて、大宮北高等学校の英語の授業では、従来の訳読（説明中心）の「紹介型」ではなく「技能習得型」の授業で、「実際に使える英語力」を3年間を通し鍛えていくこと、そして、生徒一人ひとりの将来の自己実現の力になる「人間力」の育成を目指します。

授業では、「英語でコミュニケーションが取れるようになりたい」、「英語を理解できるようになりたい」というみなさんの期待に応え、2年間で築いた基礎を踏まえ、演習を中心とした発展的な授業を行なっていきます。

3 学年英語科 指導目標

今年度の3学年の英語科が掲げる目的は以下の3つの目標に則り、4技能5領域（聞くこと・読むこと・やり取り・発表・書くこと）をバランスよく育み、グローバルリーダーとなるために必要な「実際に使える英語力」と将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成することです。

1. 読む・聞く・話す・書く等の実際のコミュニケーションにおいて、これまで築いた基礎的な知識を、適切に活用することのできる技能を育むこと。
2. 読んだり聞いたりした情報や考えの概要や要点、書き手や話し手の意図などを的確に理解し、論理的に表現することのできる力を育むこと。
3. 英語を主体的に使ってコミュニケーションを取ろうとする態度を向上させるとともに、自らに合った学習方略を選択し、自律的に学ぶことのできる学習者を育み、支援すること。

近年の入試傾向

2021年からセンター試験の代わりに大学入学共通テストが導入され、英語の試験の傾向も大幅に変わりました。リーディングでは、文法や発音・アクセントの問題が削られる代わりに、長文のテーマや形式が多様化し、単語量と図・グラフ・イラストが増加しました。リスニングは、センター試験では50点だったものが倍の100点となり、問題の約7割が1回しか放送されない問題へと変化しました。また、2024年度以降の英語検定2級のライティングには、文章の要点を簡潔にまとめて記述する「要約」の問題が追加されています。これらの入試傾向に対し、ただ単に「大学受験英語は難化している」と捉える人もいますが、それ以上に「知識の定着を前提とした活用力」「限られた時間の中で膨大な量を処理する力」を問う問題が増えたという方が正しいでしょう。

そんな大学入試に臨む68期のみなさんが身につけなければいけないのは、「活用することを前提とした基礎力」と「情報処理能力」です。昨年までの2年間で築いた基礎を活用する方法、時間内に要点をつかみ正答を導き出すノウハウを、授業やその復習を通じて身に付けていきましょう。

学習のポイント

1. 英語は単語学習が9割

これからの1年間、365日、英単語の学習を継続させることが、英語力向上の最短ルートです。5分からでいいので、**英単語の学習をルーティン化**してください。単語力が向上すると、自ずとリーディング・リスニングの理解度も向上するはずですが、「わかってはいるけれど、なかなか習慣化できない…」という人のために、以下のコツの中で取り入れられそうなものからチャレンジしてみてください。

- ・空白の「時間」「場所」にルーティンを入れ込む

(例)「朝に教室で」「通学時間に電車で」「放課後に自習室で」「夕食前にリビングで」

- ・やる気が出るのを待つのではなくテクノロジーに頼り、意欲をコントロールする

(例) リマインダー、アラーム、Study Plus、単語学習アプリ

- ・1日で全部覚えようとせず、忘れる前提で1週間同じ範囲を繰り返し確認する

×1日50個完璧に覚える → ◎忘れる前提で1週間に200語確認し続ける

2. Input と Output の黄金比率は3：7

限られた時間の中で、効率的に結果を出す学習法とは、どんなものだと思いますか？

「英単語帳を眺める」「スタサプの解説動画を視聴する」「参考書を読む」だけの学習をどれだけ長時間行っても、結果にはなかなか結び付きません。コロンビア大学で行われた実験の結果、人がものを覚えるための黄金比は「**Input 3割：Output 7割**」だと判明しました。「**問題を解く**」「**人に説明する**」「**質問する**」「**テストする**」などの**Output の活動**を通じて、自分の知識を整理してどう活かそうか考え、その過程の中で記憶をするためです。

「Input ができていないのに、Output 中心で学習を進めることに不安を感じる」という人もいるかもしれませんが、**Output をすることは自分に定着していないポイントを明確化し、次の一步を考えることに繋がります**。Output 中心の学習の中で、ポイントを絞って Input の活動を入れ、2つのバランスを保ちながら学習するよう心がけてみてください。

3. 精度と速度を上げるリーディング

共通テストや国公立2次、私大、どれをとっても「**限られた時間の中で膨大な量を処理する力**」を問う問題が増えている傾向を受けて、文章の要点を読み取り正答する「**精度**」と時間内に処理する「**速度**」を向上させることが大切になってきます。以下のことに重点を置き、「**精度**」と「**速度**」を高める学習を実践していきましょう。

精度：答えの根拠を明確にすること、文章の全体の主旨と詳細を掴むこと、自分の間違えた問題の分析

速度：必ず問題を解く際には時間を測り、WPM (Words Per Minute) 120 を目指すこと ※R5 共テ 6300 語

リード文や設問を事前に見て、ポイントを絞って本文を読むコツを掴むこと

4. 「慣れ」が勝負のリスニング

リスニングが苦手、なかなか伸びないという人がいますが、その原因が何なのか、改めて振り返ってみましょう。そもそも単語・熟語の基礎が身につけていない人は英単語の学習をルーティン化することが先決ですが、そうでない人は以下のことに「**慣れる**」ことが重要になります。演習する際に意識してみましょう。

・英語を聞くこと (流し聞きでも生活の一部に取り入れてみよう) ・英語を英語のまま理解すること

・問題形式 ・事前に短時間で設問を確認し、要点やキーワードを確認すること ・展開を予想すること

また、復習する際には必ず**スクリプトを確認**し、回答の根拠になる箇所や要点をつかむのにポイントとなるフレーズを見つけたり、シャドーイングなど自分で声に出すことで「**慣れ**」に繋げることが大切です。

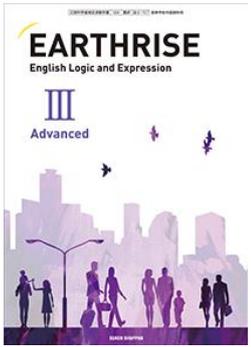
5. 自己分析が次のステップへの最短ルート

今年度はこれまでと比べ、演習が中心の授業となるほか、校内での模試や過去問演習などの機会が増えます。演習への取り組み方以上に大切なのが、**演習後のやり直し・振り返り・自己分析**です。ただ、分析をする際に「不正解だった問題」だけではなく、「**たまたま正解だった問題**」も**振り返りの対象に入れてください**。今回は勘で、迷った結果、なんとなく正解できた問題は、入試本番でも正解できる確証がないからです。そして、「不正解だった問題」「たまたま正解だった問題」にどんな問題が多いか、その中で難易度が低かった問題はどの問題なのかを確認し、次の学習目標を定めることが、限られた時間の中で結果を出す最短ルートです。

1. 目標

- ・日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、論理的に話したり書いたりして相手に伝える発展的な技能を身に付ける。
- ・アウトプットを中心とした言語活動を通して、話すこと（やり取り・発表）・書くことの技能をバランスよく伸ばすとともに、自ら主体的に英語を使ってコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。
- ・実践的な演習を行うことにより、生徒全員の希望進路実現を目指すとともに、将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成する。

2. 使用教材と用途

Textbooks			Weekly Test	
EARTHRISEⅢ Advanced	共通テスト リスニング 分野別 10min.	共通テスト リスニング TRY 30	Vintage ランダム問題集 Aviator	英文法・語法 Vintage
				
1 学期 教科書	1 学期 冒頭リスニング教材	2 学期 共通テスト対策	1 学期 文法 問題演習	自主学習用教材
週1回程度使用予定。 付属の WORKBOOK あり。 WORKBOOK は提出あり。	共通テスト傾向のリスニング 教材。 毎授業の冒頭に使用予定。	共通テスト形式の問題集。 授業で演習・解説予定。 ※購入は新版発行後です。	Vintage のランダム問題集。 週1回程度使用予定。 Weekly Test 出題予定。	Aviator の復習に用いる 教材。 バイブルにしてください。

3. 指導計画

学 期	教 材	EARTHRISEⅢ Advanced	Vintage ランダム問題集 Aviator	共通テスト リスニング 分野別 10min.	共通テスト リスニング TRY30	評価の観点 知識 思考 態度 技能 判断 表現
1	中 間	L1:メールを書く L4:意見を述べる	Day1～6	Part I 第1～9回		○ ○ ○
	期 末	L7:イラストを説明する L11:要点を整理する	Day7～12	Part II 第10～19回		○ ○ ○
2	中 間				第1～3回	○ ○ ○
	期 末				第4～6回	○ ○ ○

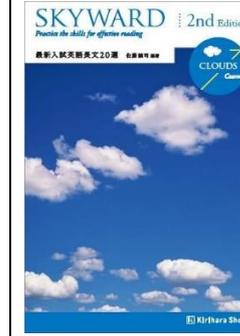
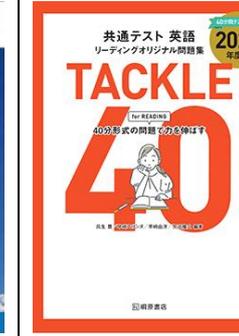
※3学期は特編授業となるため、過去問等を使用して進路実現を見据えた実践演習を行う予定です。

※Weekly Test の範囲や日程等の詳細はまた後日お知らせします。

1. 目標

- ・ 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことの要点や意図を掴み、その内容を踏まえて論理的に話したり書いたりして相手に伝える技能を身に付ける。
- ・ 総合的な言語活動を通して、4技能5領域の英語運用能力をバランスよく伸ばし、実際に使える英語力を育む。
- ・ 実践的な演習を行うことにより、生徒全員の希望進路実現を目指すとともに、将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成する。

2. 使用教材と用途

Textbooks				Weekly Test
Heartening III English Communication	共通テスト 読解トレーニング	SKYWARD CLOUDS 2nd Edition	共通テスト リーディング TACKLE 40	英文で覚える 英単語 ターゲット R
				
1 学期 教科書	1 学期 冒頭リーディング教材	1 学期 リーディング教材	2 学期 共通テスト対策	自主学習用教材 英単語帳
週2回程度使用予定。 付属の WORKBOOK あり。 WORKBOOK は提出あり。	共通テスト傾向の リーディング教材。 毎授業の冒頭に使用予定。	私大・国公立2次を見据えた 長文読解の問題集。 授業で演習・解説予定。	共通テスト形式の問題集。 授業で演習・解説予定。 ※購入は新版発行後です。	文章と一緒に覚えることができ る英単語帳。 Weekly Test 出題予定。

3. 指導計画

学 期	教 材	HearteningⅢ English Communication	SKYWARD CLOUDS	共通テスト リーディング	共通テスト リーディング TACKLE40	評価の観点 知識 思考 態度 技能 判断 表現
1	中 間	L1:対話 記録文 L3:インタビュー論証文	Unit1~10	Level 1 Training1~10	/	○ ○ ○
	期 末	L5:対話 説明文 L7:ディベート 説明文	Day11~20	Level 2 Training11~20		○ ○ ○
2	中 間	/	/	/	第1~5回	○ ○ ○
	期 末	/	/	/	第6~10回	○ ○ ○

※3学期は特編授業となるため、過去問等を使用して進路実現を見据えた実践演習を行う予定です。

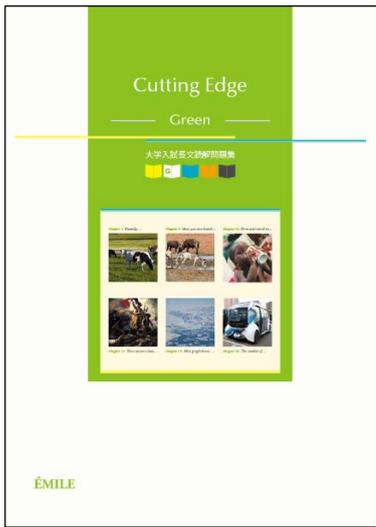
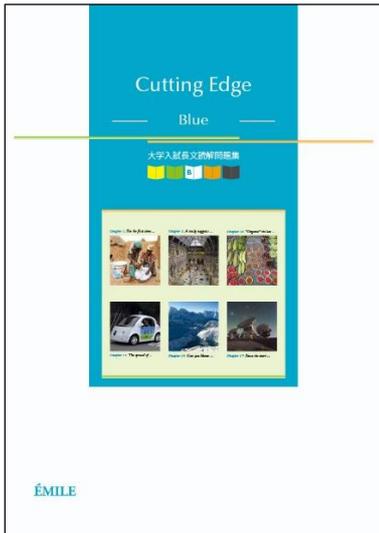
※Weekly Test の範囲や日程等の詳細はまた後日お知らせします。

第3学年 英語特講 単位数 普通科 (A1 コース) 3 単位

1. 目標

- ・ 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことの要点や意図を掴み、その内容を踏まえて論理的に話したり書いたりして相手に伝える技能を身に付ける。
- ・ 実践的な演習を行うことにより、生徒全員の希望進路実現を目指すとともに、将来の自己実現に繋がる「人間力」を育成する。

2. 使用教材と用途

Textbooks	
Cutting Edge — Green — 大学入試長文読解問題集	Cutting Edge — Blue — 大学入試長文読解問題集
	
1 学期 私立大学対策 リーディング教材	2 学期 私立大学対策 リーディング教材
私立大学入試を見据えた長文読解の問題集。授業で演習・解説予定。 Green は共通テスト・標準の私大と同様のレベル。 Blue は国公立大学2次・有名私大・難関私大のレベル。	

3. 指導計画

学期	教材	Cutting Edge — Green — 大学入試長文問題集	Cutting Edge — Blue — 大学入試長文読解問題集	評価の観点 知識 思考 態度 技能 判断 表現
1	中間	Chapter 1 ~ Chapter 9	/	○ ○ ○
	期末	Chapter 10 ~ Chapter 18		○ ○ ○
2	中間	/	Chapter 1 ~ Chapter 9	○ ○ ○
	期末		Chapter 10 ~ Chapter 18	○ ○ ○

※3学期は特編授業となるため、過去問等を使用して進路実現を見据えた実践演習を行う予定です。

観点別評価ルーブリック

教科 外国語(英語)
科目 英語コミュニケーションⅢ 英語表現Ⅲ 英語聴解

レベル(学年)

	知識・技能 (Knowledge & Technics)		思考・判断・表現 (Critical thinking)		主体的に学習に取り組む態度 (Attitude)		学習活動	A: 「十分達成できる」 Over 80%	B: 「おおむね達成できる」 80%・40%	C: 「努力を要する」 Under 40%
	W	K	W	C	W	A				
読 む こ と	<p>英語のリスニング教材において聴取する音源・技術と異なり、外国語の音声と聴き手との間に隔りがある。また、読者の読解力に一定の隔りがある。この点を踏まえて、読者の読解力向上を図るための教材を編むことができる。</p>		<p>田舎や田舎から都市部や先進国へ移住する人々の生活や文化を学ぶことにより、多文化共生社会の発展に貢献することができる。</p>		/		<p>小中高一貫校 特別支援学校 盲学校 聴覚障害者 肢体障害者</p>	<p>英語読解力80%以上の児童の割合 90%以上の児童の割合</p>	<p>英語読解力70%以上80%未満の児童の割合 75%以上の児童の割合</p>	<p>英語読解力40%未満の児童の割合 75%未満の児童の割合</p>
	<p>英語のリスニング教材において聴取する音源・技術と異なり、外国語の音声や発音を聴き手と聞き手との間に隔りがある。この点を踏まえて、読者の読解力向上を図るための教材を編むことができる。</p>		<p>田舎や田舎から都市部や先進国へ移住する人々の生活や文化を学ぶことにより、多文化共生社会の発展に貢献することができる。</p>							
聞 く こ と	<p>英語のリスニング教材において聴取する音源・技術と異なり、外国語の音声や発音を聴き手と聞き手との間に隔りがある。この点を踏まえて、読者の読解力向上を図るための教材を編むことができる。</p>		<p>田舎や田舎から都市部や先進国へ移住する人々の生活や文化を学ぶことにより、多文化共生社会の発展に貢献することができる。</p>		/		<p>小中高一貫校 特別支援学校 盲学校 聴覚障害者 肢体障害者</p>	<p>英語読解力80%以上の児童の割合 90%以上の児童の割合</p>	<p>英語読解力70%以上80%未満の児童の割合 75%以上の児童の割合</p>	<p>英語読解力40%未満の児童の割合 75%未満の児童の割合</p>
	<p>英語のリスニング教材において聴取する音源・技術と異なり、外国語の音声や発音を聴き手と聞き手との間に隔りがある。この点を踏まえて、読者の読解力向上を図るための教材を編むことができる。</p>		<p>田舎や田舎から都市部や先進国へ移住する人々の生活や文化を学ぶことにより、多文化共生社会の発展に貢献することができる。</p>							
① や り 取 り の こ と	<p>英語のリスニング教材において聴取する音源・技術と異なり、外国語の音声や発音を聴き手と聞き手との間に隔りがある。この点を踏まえて、読者の読解力向上を図るための教材を編むことができる。</p>		<p>田舎や田舎から都市部や先進国へ移住する人々の生活や文化を学ぶことにより、多文化共生社会の発展に貢献することができる。</p>		/		<p>特別支援学校 聴覚障害者 肢体障害者 言語障害者</p>	<p>英語読解力80%以上の児童の割合 90%以上の児童の割合</p>	<p>英語読解力70%以上80%未満の児童の割合 75%以上の児童の割合</p>	<p>英語読解力40%未満の児童の割合 75%未満の児童の割合</p>
	<p>英語のリスニング教材において聴取する音源・技術と異なり、外国語の音声や発音を聴き手と聞き手との間に隔りがある。この点を踏まえて、読者の読解力向上を図るための教材を編むことができる。</p>		<p>田舎や田舎から都市部や先進国へ移住する人々の生活や文化を学ぶことにより、多文化共生社会の発展に貢献することができる。</p>							

9 家庭科（専門）

保育基礎

①学習の意義・目的

保育の意義や方法、子供の発達と生活の特徴、子供の福祉や文化について理解し、関連する技術を身に付けます。子供一人一人の発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成します。

②授業の受け方

欠席せず、忘れ物をせず、私語を控え、提出物の期限は守る。

③学習方法

日ごろから、子供や子供のいる生活に興味・関心を持って過ごしましょう。

保育技術は思考・判断・表現・意思疎通・創造・想像などの力を発揮し意欲的に取り組みましょう。

保育者（保育を担う職業人）の立場になって学習するよう心がけましょう。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
保育基礎		2	保育基礎 実教			
【到達目標】		別ページのルーブリックの目標参照				
【学習上の留意点】		製作物、実技、講義にしっかり取り組みましょう。				
月	テスト	進度（単元）	製作物・実技	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	1章 子どもの保育	<input type="checkbox"/> なまへの絵本をつくろう	○		○
		4章 子どもの文化	<input type="checkbox"/> 音楽・リズム表現技術 <input type="checkbox"/> 造形表現技術		○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	2章 子どもの発達		○		
			<input type="checkbox"/> 造形表現技術試験	○	○	
9月 ～ 10月	2学期 中間		<input type="checkbox"/> 言語表現技術 <input type="checkbox"/> 家庭看護技術	○	○	
		3章 子どもの生活	<input type="checkbox"/> 子育て中の調理		○	○
11月 ～ 1月	2学期 期末	5章 子どもの福祉	<input type="checkbox"/> 子どもに関する研究（レポート課題）と発表	○	○	○

※ 実習費（2千円程度）を徴収します。（最初の授業で連絡します）

※ 定期テストは実施しませんが、授業中に実技テストや小テストをします。（必ず受けること）

観点別評価ルーブリック

教科
科目
専門家庭
保育基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査（実技含む） ・ 実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当問題80%以上程度の得点率 ・ 安全や衛生に十分留意し工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当問題50%以上80%未満程度の得点率 ・ ねらいを理解し的確に進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当問題50%未満程度の得点率 ・ 進め方に改善が求められる。
思考・判断・表現	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習（レポート含む） ・ 各種ワーク ・ 作品製作 ・ ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを正しく解釈し、さらにその知識を活用し、よりよく表現できている。 ・ 具体例を想像するなど他の生活場面等で活用できる程度に習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習で理解したことを表現できている。 ・ 問題意識を持って習得に努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の理解に不十分などころが見受けられ、改善が望まれる。 ・ 表現が不十分で伝わりにくいところがある。
主体的に学習に取り組む態度	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種自己評価シート ・ ノート ・ 実習や作品への取り組み ・ 各種レポート ・ 行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画性をもって着実に各種課題に取り組んでいる。 ・ 単元ごとに、気づき（発見）や疑問を見いだした後の課題としてしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画性をもって各種課題に取り組んでいる。 ・ 学習したことを整理できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種課題に取り組むにあたって計画性が求められる。 ・ 学習したことを整理することに工夫が求められる。

10 STEAMS TIME III

理数科

(1) 学習について

2年生で行った課題研究の内容をさらに煮詰めて、最終的には英文の発表ポスターを作成してもらい、英語にてポスターセッションを行ってもらう予定です。この過程により、授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上もめざします。

この内容からも分かるように、課題研究は、みなさん自身が主体的にやっていくべきものとなります。

(2) 令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
STEAMS TIME III		2	各教科の教科書	
【到達目標】		⑥ 各自が設定した研究テーマについて、最終発表原稿を作成する。 ⑦ 各自の研究成果の発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。		
【学習上の留意点】		① 各自の興味関心に応じて研究テーマを設定する。 ② 主体的な態度で研究活動に臨む。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期	研究発表のまとめ英語論文の作成		<input type="checkbox"/> 研究発表の内容を再度確認することができたか <input type="checkbox"/> 論文を作成することができたか
6月 ～ 7月	1学期	英語ポスターの作成 英語ポスター発表会		<input type="checkbox"/> 研究内容を英語のポスターにまとめることができたか。 <input type="checkbox"/> ポスターが他者にも分かりやすくまとめられているか。 <input type="checkbox"/> 研究発表の内容を他者が理解できるよう発表することができたか <input type="checkbox"/> 質問に対して、自分の言葉で説明できたか。
9月 ～ 10月	2学期	□各自の研究分野の興味を掘り下げる		□ 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースが確認できたか
11月 ～ 12月	2学期	□各自の研究分野の興味を掘り下げる		□ 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースを生かした応用的な問題を解決することができたか。
1月 ～ 3月	3学期	□各自の研究分野の興味を掘り下げる		□ 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースを生かした応用的な問題を解決することができたか。

普通科

(1) 学習について

2年生で行った課題研究の内容をさらに煮詰めて、最終的には日本語で論文を作成してもらい、各ゼミラボで論文集を作成・保存する予定です。この過程により、授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果をまとめることにより、次なる課題研究に向けた基礎固めをめざします。

この内容からも分かるように、課題研究は、今後みなさん自身が主体的にやっていくべきものとなります。

(2) 令和6年度 年間学習計画表

科目名等	単位数	教科書名	副教材等
STEAMS TIME III	1	各教科の教科書	
【到達目標】	⑧ 各自が設定した研究テーマについて、最終発表原稿を作成する。 ⑨ 各自の研究成果の原稿作成を通して、自身の課題研究について整理する。		
【学習上の留意点】	① 各自の興味関心に応じて研究テーマを設定する。 ② 主体的な態度で研究活動に臨む。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期	研究発表のまとめ論文の作成	<input type="checkbox"/> 研究発表の内容を再度確認することができたか <input type="checkbox"/> 論文を作成することができたか
6月 ～ 7月	1学期	論文集の作成	<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースが確認できたか。
9月 ～ 10月	2学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる	<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースが確認できたか
11月 ～ 12月	2学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる	<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースを生かした応用的な問題を解決することができたか。
1月 ～ 3月	3学期	<input type="checkbox"/> 各自の研究分野の興味を掘り下げる	<input type="checkbox"/> 各自の興味関心持つ分野の学問的知識のベースを生かした応用的な問題を解決することができたか。

1 学期観点別評価ルーブリック

	A	B	C	時期	内容
知識・技能	研究内容について新たな考察を行い、より深いまとめを行うことができた。	研究のまとめやプレゼン準備を適切に行うことができた。	研究のまとめやプレゼン準備において不備がある。	6～7月	発表会準備
思考・判断・表現	発表に必要な要素を精選し、聞き手を引き付けることができている。 (理数科) 質問に対して適切な英語で返答し、相手に理解させることができる。	研究全体を通して明らかにしたことを発表している。聞き手を意識した工夫が見られ、質問にも適切に答えられる。 (理数科) 聞き手が理解できる内容、速度の英語で伝えることができる。	発表の際に必要な要素が選べず、研究の概要を羅列して説明している。聞き手を意識することができていない。 (理数科) 英文のメモを読んでいるだけの状態である。	1 学期末	発表会
主体的に学習に取り組む態度	予定したまとめが終わり、より聞き手を引き付ける方法を模索することができている。	予定したまとめやプレゼンを完結させることができている。	まとめやプレゼン準備が途中で終わってしまっている。	1 学期末	進捗度

2 学期観点別評価ルーブリック

	A	B	C	時期	内容
知識・技能	大学入学共通テストレベルの問題が7割以上解けるレベルの学力が身に付き、大学個別試験の対策も進んでいる。	大学入学共通テストレベルの問題が6割解けるレベルの学力が身につけている。	大学入学共通テストレベルの問題に対応しうる学力が身につけている。	2 学期末	
思考・判断・表現	自分の強み弱みと各大学の試験科目を踏まえ、自分に必要な学習に力を入れることができている。	大学入試に向けて自分に必要な学習方法を考えることができている。	大学入試に向けて自分に必要な学習が定まっている。	9 月	
主体的に学習に取り組む態度	自分の志望校の入試問題の傾向を研究し、その対策をすることができている。	主体的に大学入試問題研究に取り組むことができている。	与えられた問題を解いているだけの状態である。	10～11月	